

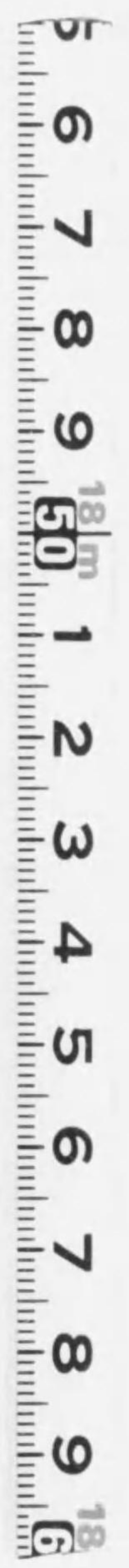
152

村山午朔著

麗女と衛生

特 253

260



始



特253
260



静岡縣學校衛生技師
静岡縣社會事業顧問醫

村山午朔著

處

女

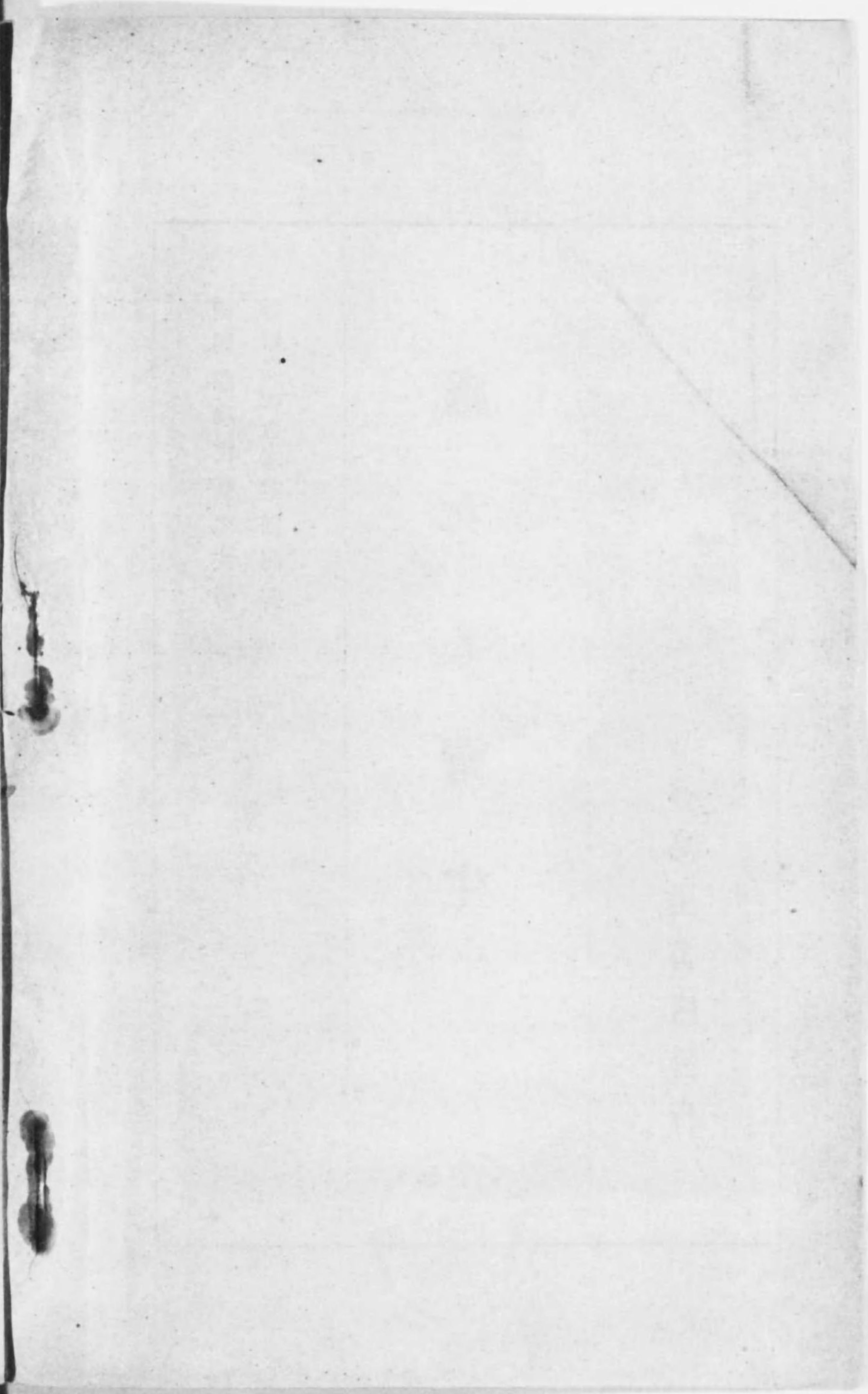
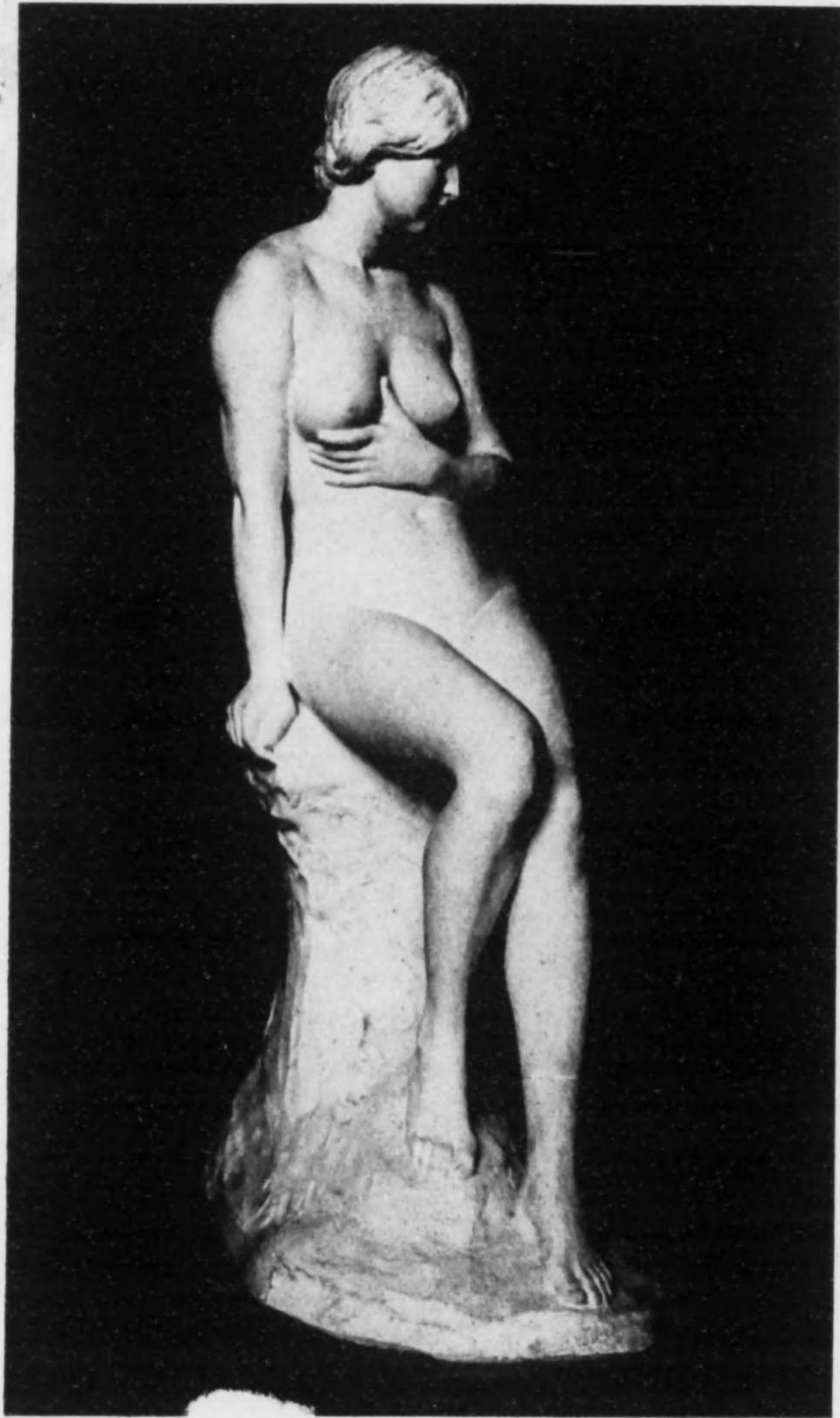
と

衛

生

谷島屋書店發行





はしがき

もう五年も前の昔になる。時の「静岡縣青年」編輯主任者から求められて二三ヶ月に亘つて縣下處女諸姉の爲に拙文を掲げた。そして尙乞はるゝまゝに之を一編に纏めて『處女と衛生』と題し縣聯合女子青年團の手によつて廣く縣下處女諸姉の許に贈らるゝの光榮を得たのである。其後幾度か再び之が上梓を求められたが、其をそのまま再び印刷に附する事は、何だか自分乍ら氣恥しく意に滿たなかつたし、といつて筆不精な自分が書きなほす事は中々容易でないばかりでなく其にさうした暇もなし、よし暇があつても、自分でも愛想が盡きる程うまく筆が動かない。其でそのままになつてしまひ、いつか、そうした本のあつた事も幸に忘れられてしまつた。

然し其後相變らず口にだけはさうした内容について女學校處女會婦人等に於て随分多數の娘さん方の前に聲をからして呼びかけて來た。今後もさうだらう。否わが國の現状に鑑み、自分の聲と力のつゞく限り益々高唱しなければならぬと思つてゐる。

所が最近ある女學校から、思ひ出したやうにひよつんとこの本の注文を受けた「もうない

のです」とお断りしたら校長さんがゐらしてどうしても出るやうにして呉れと云ふ事だつた
其で自分もつひお受けしてしまつた。そしてペンを握つたまゝ又「處女と衛生」と書いただ
けで幾夜か過ぎた。

今書き終つたものを見ると矢張り文はぎごちなく拙い。其は勿論自分としては止むを得な
い。而して言ひたい事ばかり多いのに筆動かさると、餘りに詳しくなつてもと思つて以下の
内容に止めた。然し其の内容心持だけでも前にも増して是非多くの諸姉に一讀を煩しよく考
へてみて戴きたい事なのである。内容の統計資料の如きは全部最近のものを採り、更に諸項
に亘つて加筆した點が尠くない。

處女諸姉を指導の立場にある方々も是非一度お目透しを願つて御批評と御教示を得たいと
思ふ。

昭和七年六月

著 者 識

目 次

處女と衛生

- 一、まづ健康！……………一
- 二、健康と疾病と衛生……………二
 - (一) 健康と疾病……………二
 - (二) 疾病の原因……………三
 - (イ) 内因的要約……………三
 - (ロ) 外因的要約……………四
 - (三) 抵抗方と自然治癒力……………五
 - (四) 衛生とは何ぞ……………六
- 三、現代と女性……………八
 - (一) 女子の身體と體育……………九
 - (二) 時代の推移と女性……………一
 - (三) 女性と母性……………一三

四、我が國民の健康状態

(一)	各國並本縣の一般死亡率率	一五
(二)	乳兒死亡率率	一七
(三)	各國民の平均壽命	一九
(四)	主要死亡原因	二〇
(五)	年齡階級別死亡率率	二二
(六)	結核死亡率率	二四

五、健康への要諦

(一)	適當な榮養	二九
(二)	新鮮な空氣と充分の日光	三〇
(三)	適度の刺戟	三一
(四)	充分の休息と睡眠	三二
(五)	清潔と規律	三二

六、處女期の特殊衛生

(一)	婦人病の惱み	三四
(二)	女性生殖器	三六

(三)	春機發動期	三九
(四)	排卵機能	三九
(五)	卵巣機能と子宮との關係	四〇
(六)	月經	四二

(イ)	月經の初汐	四二
(ロ)	月經の型並持續及周期	四三
(ハ)	閉經期	四四
(ニ)	月經の症候	四五
(ホ)	月經の生理的中絶	四五

(イ)	身體及精神の安靜	四六
(ロ)	局部の清潔	四七
(一)	局部の清拭	四八
(二)	あて綿と月經帶	四八
(ハ)	其他の注意	五〇
(八)	月經の異常	五〇

七、結婚と遺傳……………五二

(一)	生命の神秘……………	五二
(二)	結婚と戀愛……………	五三
(三)	結婚の年齢……………	五四
(四)	配偶者の選擇……………	五六
(五)	結婚に際して考慮を要する體質疾病惡癖……………	六〇
(イ)	身體健康ならざるものは避けたい……………	六〇
(ロ)	精神に障礙あるものは避けねばならぬ……………	六〇
(ハ)	惡疾あるものは避けねばならぬ……………	六一
(ニ)	惡癖特に飲酒癖あるものは避けたい……………	六一
(六)	遺傳……………	六四
(イ)	遺傳と教育……………	六四
(ロ)	親の形質はどうして子孫に遺傳するか……………	六五
(ハ)	メンデルの法則……………	六七
(ニ)	優性遺傳と劣性遺傳……………	七〇
(ホ)	才能の遺傳……………	七三

處女と衛生

一、まづ健康!

漆黒のなが髪、白哲の額、それから春淺き柳葉のやうな眉の下に叡智のひらめきを見せた明眸、さてはまた幾代の荒波に磨かれた磯の貝殻とも見まがふ皓い齒なみに、北國の林檎を欺く紅の豊頬のうち素直にうづくまる白兎の背にも似た氣高い鼻すぢ、更に濡れて輝くルビーの唇や、千夜小人が琢いた可憐な耳たぶ、——何といふ清艶端麗な姿であらう。實に崇高なる女性美のあらはれ。これありてこそ人の世はいやが上にも美しく、明るく、かぐはしく、そして潤ひ多きものとなる。

凡そ今の世の婦人は、なべて斯くは美しくからんと祈願し、朝に、夕にうち向ふ鏡の中に紅や白粉、香水さては綾羅錦繡と、粉黛裝飾に苦心し、流行を追ふに日夜たゞこれ疲れてみると云つても過言ではあるまい。

然し女性の眞實の美しさは、それ等お化粧だけで、決して求め得られるものではない。もつと奥深いもの、精神的なもの、云ひ換れば内在的な、強く、健かな、清純なもの、發現に依つて、

はじめて其の美は光り輝くのである。單に上塗的な細工を施したに過ぎないものが、如何にはかないものであり、それが眞の美の前に引き出されるとき、餘りにも貧弱であることは、動かすことの出来ぬ「鐵」のやうな事實である。

心ない粉飾の多くが、唯に其の人の美を養ふ上に役立たないのみか、却つてそれを傷付ける結果を生むに過ぎないことを思ふとき、私は、世の敬愛する婦人達が、眞善なる、汲めども盡きせぬ生きた美を求めるためには、小さな化粧、粉飾の殻を捨て、均整せる肉體の保全と、純潔なる精神の高揚、更に高く理想の灯を翳して、貴く生きんとするの努力と、用意とが必要であることを強調したい。

まづ健康！

そこに女性の眞の美をキャッチすることが出来る、

心も身體も、先づ健康であれ。私は諸姉のために高らかに斯く叫び、祈るものである。

二、健康と疾病と衛生

(一) 健康と疾病

「健康」とは何を云ふか。健康とは「身體の丈夫なこと」、「疾病を有せざること」で普通分り切つた言葉のやうではあるが、さて之を醫學的に定義を下さうとすると中々難しい問題で、事實上其健康と疾病との境界はしかく判然せるものではない。まあ平易に云へば心臓、肺臓其他身體のあらゆる機關が支障なく順調に生活機轉を營んで居る状態である。従つてこゝに順調さ、常態が破れて生活機轉に支障を來し異常の生活機轉を現す時に之を「疾病」と名づけるのである。尤も順調とか常態とか云ふことも個人的に差のあることは否むことが出来ない。

(二) 疾病の原因

この身體に異常を來すものは何であるかと云ふに之には種々あるが、内因と外因とに大別することが出来る。内因とは身體内に存する種々の要約であり、外因とは身體外から働きかけるものである。同じ外因が働いても誰れも同様の病氣が起るとはいへぬ。同じ寒冷にふれても皆同じく風邪をひくものではない。一升酒を呑んで平氣な人もあれば、奈良漬を食べて眞赤な顔になる人もあるのである。

(イ) 内因的要約

指趾過剰、兔唇等の畸形、血友病、色盲、夜盲症、近視、神経系疾病又は精神病の或もの、肥

胖病の如き遺傳病、滲出性體質、胸腺淋巴性體質、神經痛風性體質、無力性體質、尙儂病性體質、癩癩性體質等の如き異常體質に依つて起る諸病症は主にこの内因によるものである。又他の大多數の人に對しては何等障礙を起さない程度の微細刺戟が疾病の原因となつて障礙を受けるものがあるが之を特異性を有すと云ふ。例へば漆にかぶれ寒冷の風で尋麻疹を生じ蟹等を食して色々の障礙を起す如き者は之である。

遺傳的關係で又體質の關係で疾病の内因殊に素因の作られる事もあるが、疾病の起る素因といはれるものゝ中で生理的に避けることの出来ない要件に左右せられるものがある。例へば年齢、性による素因の相違の如きは之である。即ち痛、萎縮腎、腦溢血は大人殊に老人に多く、チフテリア、麻疹、百日咳などは小兒に多い。又血友病、色盲の如きは男に多くバセドウ氏病、骨軟化症の如きは女に多い。

(ロ) 外因的要約

之には平素生活に要なきものゝ襲來があることもあり、又、生存に必要な條件の過不及が原因として作用することもある。即ち日光、空氣、食物、溫度、氣壓等の過不及變化、外傷其他の機械的作用、昆虫、毒蛇毒、毒草、水銀、鉛等による化學的作用、細菌、寄生虫等によつて起る

疾病が之である。

(三) 抵抗力と自然治癒力

この外因的條件による支障に對しては吾人は防禦力及適應力を有してゐる。即ち、身體の抵抗力といつてゐるものである。筋肉が働いて血液の酸素が缺乏すれば忽ち呼吸を早くして之を補ふ、有害なる細菌が侵入すれば或は免疫素より或は血液の白血球によつて之を防禦する。傷をして出血すれば傷口の血液が微妙な變化をして固まり止血する。體中に不要の物質がたまれば尿や大便に排出する等研究すればする程巧妙な作用が身體の中に當人が知らなくても行はれてゐるのである。而して此等吾人身體の諸作用は獨り外因に對する防禦適應に止らず、外因によつて起つた障礙に對し更に積極的に之を恢復せんとする自然治癒力として働いてゐる事を知らねばならぬ。此等の作用が一つ缺けても其の健康は完全なものではない。而もこの身體の適應力、防禦力、自然治癒力には生來の強弱の存することは勿論であるが訓練によつて強くする事が出来るのである。

尤もある種のものには訓練では何とも出来ないものもある。一寸寒さに當つても風邪に罹り易い人が乾布摩擦や冷水摩擦で適應力を増すことの出来るのは前者の例であり、血友病の如く傷をすると血が止まらない遺傳性の體質の缺陷は如何しても直らないので後者の例である。

よく不攝生をしてゐるが丈夫だ、あの人は養生家だが弱いなどと衛生的生活が餘り價値のないものゝやうに云ふものゝあるは、内因的要約と相俟つてこれ等の作用の相當強いものである事を物語つてゐるのである。

(四) 衛生とは何ぞ

以上述べたことによつて疾病とは次の式によつて表される。

$$\text{疾 病} = \frac{\text{外 因}}{\text{抵抗力}} = \text{内因 (原因)} \cdot \text{外因 (誘因)}$$

即ち疾病はそれを來す可き外因と吾人身體の抵抗力との争闘によつて身體が傷けられた状態であり、又疾病に罹り易い内因的要約にあるものに、それを來すべき外因、誘因が結びついて起るのである。従つてある外因が加つても疾病を起さない素質のものもあり、外因が小で抵抗力が大なれば疾病として現れることが少いのである。

衛生とは辭林に「飲食、衣服、住居其他身體上に關する百般の物事に注意して身體の健康をばかり、已に發したる疾病はよく治療を怠らざること」と書いてあるが、要するに分子たる外因を出來るだけ小にし、分母たる抵抗力を出來るだけ大にする條件である。即ちより健康に、より強

くなる爲に必要な條件である。世上勤々もすると唯疾病に罹らぬやうに消極的に注意することのみが衛生だと考へてゐるものが甚だ多い。だから比較的病氣に罹らぬものは衛生などは不必要だと思つてゐる。然し強健になる爲には勿論病氣があつたら早く治療しなければならぬ、又病氣にならぬやうに注意もしなければならぬ、が更に一層積極的に訓練鍛錬しなければならぬ。其が即ち衛生なのである。

疾病の治療は其の根本は吾人身體の有する自然治療力によるのであつて、全ての疾病が單に醫師の治療によつてのみ治るものではない。治療醫の任務は藥物其他を利用し、疾病を起してゐる原因を發見して之を除去し、吾人身體の有する抵抗力、自然治療力を高めるにある。従つて放置しをけば當然死の轉歸をとる可き患者がこの醫師の治療によつて救はれることの少くない事は勿論であり、又放置しをくもいつか自然に治療すべき疾病も早期治療によつて速かに治癒し、生活力、活動力を餘り傷けられることなしに自己の職業任務に精進しその能率をあげ幸福なる生活を贏ち得るのである。

然し日常生活をして衛生的ならしむる何等の努力なしに、否反つて不合理な非衛生的な生活の爲に疾病を來し藥物を求め醫師に頼らんとするのが世の常であるが、病を得て醫師を求めは既

に遅い。「まづ健康！」は昭和日本の最大叫びであり「健康なるもの、より健康へ」こそ保健衛生の眞諦であらねばならぬ。されば吾人日常の衛生的生活指導は亦醫師の最も重大なる使命でなくてはならず、世に多き治療醫に對し専門的健康相談指導醫の出現を高唱するものである。然し一面それよりも病氣にならねば醫師を訪ねるものでないとの考えが今日吾が國民一般の趨勢であるのを最も遺憾とし衛生の生活化をモットーとする正しい衛生思想の普及を期することが最も緊要であると思ふ。

三、現代と女性

「働く」ことは人の本分である。我々の個人生活に喜びと幸福を得る爲に、我々の向ふ三軒隣りの社會生活をもつと良くする爲に我々は働かねばならぬ。我々に與へられた天職に向つて之を喜びつゝ楽しみつゝ感謝しつゝ、もつとく住みよい世の中をつくる爲に全身全靈を投げかけて働くことこそ生きる者の最も貴い價值であると思ふ。

吾人はそこにまづ健康！を要求する。

病んで楽しとするものが何處にあらう。電車や汽車の中で肺病らしい娘と隣り合せて誰か愉快

を感じやう。人を、家を、社會を暗くするものは先づその第一として病を數へねばならぬ。「明るく強く正しく」生きる爲には先づ心身の健康を得ねばならぬ。

時代は益々強健なる國民を要求してゐる。

而して男子も女子もその必要さには變りはないが、然し私は特に今日の女子に其の切なるものあると思ふ。

(一) 女子の身體と體育

男女兩性の差異は既に初生兒の時からあるが青春期に入るに従つて兩性各々其の特有の發達をなし其差益々著大となる。即ち初生兒の男の身長平均四九・二釐、體重平均三・〇四疋なるに對し女の身長平均四八・七釐、體重平均二・八七疋であつて唯小兒期の終り女子の發育は急速となり一時的に十二歳から十四歳頃まで男の發育を凌駕するが後再び劣り、成人では身長之差二〇釐低く男子の體重の約八分の一は軽くなるに至る。而して其の容姿は男子の武骨粗暴なるに反して肌細かに毛少く柔軟にして滑らか、皮下脂肪組織の發達よく圓満優美ピナスの像のやうな美しい曲線を示す、骨格は甚だ纖弱であり、しかも男子の胸部廣く腹部小にして下肢よく發達せる動的體型に反し、女子は胸部狭く下腹部發達して脚部短く靜的體型である。筋肉の發達の如きも可成

の隔りを有してゐる。其他肺、心臓等殆ど全ての臓器は少なくて軽い、血液は赤血球の數少く比重は低く即ち一般に貧血であり神経も薄弱である。又死亡率の如きも青春期に於て特に男子より大である。其の精神的内容の一半を窺ふも男子の意志堅固強猛にして創始力に富み理性によつて其感情を制御するに對し、女子は意志弱く、鋭い直覺力を有して一定範圍内の事物に對しては精細なる觀察力があるが總括的なこと遠大なこと創造力には乏しい。而して全てが感情に支配され易い。之を要するに男の全てが「力」そのものゝ表現であるに對し女子は矢張り「弱きものよ汝の名は女なり」の言を否定することは出来ない。

しかも特に舊來我國の女性は誤つた傳統的精神訓育に禍され、其の健康に就ては餘り省られず肉體を輕じ粗食に甘んじ運動睡眠の不足にも注意されず、不規律不攝生の生活に慣らされて、その男女差を益々大ならしめた。然しこれ等中世期の教權中心主義にとらはれた、極端な精神過重は時代を覺醒せしめてギリシヤ精神の復興となり、世を擧げて健全なる心身の調和的發達を希ひ體育を高唱せしめた。そして我國六十年の近世教育は女子身體の改造にも亦甚だ役立つてゐる。即ち女子の體格は著しく強健長大になり其の姿勢の整正を見るに至つたことは争はれぬ事實である。我等は日常街上に於て妙齡の娘と其の母とが相並んで歩行し、其の母の身長之餘りに低く娘

の肩にも及ばない様を見るのが十中の八九である。是は即ち女子の家庭蟄居から屋外へ解放された結果であることを示す好適例である。明治以來僅々六十餘年學校生活をした娘が母となつて漸く一代若くは一代半の間に於て既に顯著なる女子體格上の相違があるとすれば、日本人が歐米人より倭小の人種であると臆斷するは早計である。同時に我等は今後體育の如何によつては歐米人に比して遜色のない長大強健なる人種となり得ることを確信するものである。併し乍ら今日に於ては女子は勿論男子も、歐米人に比して遙かに劣位に置かれねばならぬ。單に身長、體重、骨格筋肉の發達に就てのみならず、其の均整の發育に於て、未だこの感を深くせざるを得ない。

この時に於て著るしき體育熱の勃興を見、競技運動は益々一般的に普及隆盛となり、しかも漸次合理化されつゝある事は洵に慶賀に堪へないが、尙單に體育即運動と誤解され、運動と不離の關係にある榮養、休息等諸種の衛生上の注意を忘れ、眞の體育の生活化を期するに未だ尙遠きものあるを遺憾とせねばならぬ。而して其が特に女子に於て然りである。

(二) 時代の推移と女性

社會は日々に動き進みつゝある。故郷に靜かに固定した生活から世界的にと動きつゝある。従つて今日までの所謂婦徳だけでは間に合はない。「若くしては親に従ひ、嫁いでは良人に従ひ、

老いては子に従ふ」と云ふ三從道德は最早や現代女性にはあてはまらない。祖母より母へ、母より娘へと昔乍らの訓へを傳へて足りた固定した社會は、もう遠い過去の夢である。祖母の時代と母の時代が違へば母の時代と娘の時代と違ふ。過去を以て現代を律することは出来ない。況んや未來二十年三十年の後をや。

社會は日々に動き進みつゝある。現代女性は之に處するに

(イ) 先づこの新境遇に應じ得る世界的の廣い知識常識を養成せねばならぬ。これからの未來は如何になつて行くか、それは今明かでないから自分自身で自分の境遇を處理し新生活を開拓して行く基礎的な力、しつかりした廣い判斷力、混亂の中に光明を見出す強い意志の力を持たねばならぬ。

(ロ) 金や地位を望むより健全な肉體と精神を養はねばならぬ。固定した社會生活の時代は、地位や財産が健康や教育よりも幸福に生きられたかも知れないが、今後は全て内容本位、人間本位で生きねばならぬ。

(ハ) 舊來の形式道德だけでは獨立して社會生活をすることは出来ない。形式でなく自然の眞實性を培て如何なる場合にも誠の一道を踏み外さぬやうな力を養はねばならぬ。而して何處へ

行つても生活出来るやう教養されねばならぬ。即ち一人前の人として働き得るやうな「自立自活の能力」を養はねばならぬ。

一夜靜かに胸に手ををいて考へて見て下さい。貴女の家は富んでゐるかも知れぬ、貴女のお父さんは社會的地位の高い人かも知れぬ。貴女の親戚には金の茶釜が十數個もあるかも知れぬ。然し其が貴女個人の力に、貴さにどうと云ふのか。明日貴女が素裸體の一女性として社會に放り出された時貴女は先づどうして生きて行かうとするのか。

今や世界を通じて大きな渦をなしてゐる經濟問題生活問題は、特に從來から富に恵まれなかつた我國に於て近來更に重大さを増してゐる。斯くて時代は靜かに家庭にあつた力そのものに恵れぬ弱き婦人をして力そのものゝ表現である男子の間に伍して街頭に立たしめ、女性である前に先づ人間として生きることを強いてゐる。こゝに女子の健康が高唱されなくて何があらう。

而して今日我國女子の教育特に補習教育の現状にあきたらぬものを感じると共に、女性の之等教育に對する態度につき反省三省を希ふものである。

(三) 女性と母性

「女は弱い然し母は強い」。纖弱な女子も唯骨盤は男子よりも廣く大きく、腰部大腿部の筋よ

く發達して靜的體型をなし、豊麗なる乳房を有し、一定年齢に至て月經の來汐をみ、又感受性強くして知覺力觀察力の鋭敏なものも慈愛に富み、優美な感情の持主であるのも之を詮じつむれば、皆全ての女性が母たらねばならぬ天賦である。神は弱々しき女子に荒くれ男にも優る壽命を與へてゐるのも、遺傳學上子孫に對して母が遙かに父よりも優生的地位に置かれてあることも、母性の貴さを物語つてゐるものである。又それだけ婦人には母性としての重大な責務あることを自覺せねばならぬ。

社會のあらゆる方面の改造が喧しく叫ばれてゐる今日、その改造の鍵は實に母の手に握られてゐるといつてもよいと思ふ。國民の保健問題の如き實に國家的重大問題も、先づ母が自覺して衛生思想を養ひ、自ら健全なる母體にして始めて健全なる乳兒を生み得、正しき育兒によつて始めて健全なる國民は育て上げられるのである。

時代は婦人に女である前に人間としてのより強き力を持つことを要求してゐる。而して現代に生きるものは又現代の流れに棹さねばならぬ。然し假令生活問題は多くの職業婦人を生み、結婚を容易ならしめぬとしても、其は唯その時、その時の一つの旋みに過ぎぬ。永遠の流れ、宇宙の眞理、女性に向ふ可き道はよりよき母性にあることを忘れてはならぬ。

今日の經濟組織に於ては母性と職業とはいつまでも相容れぬ大きな悲劇であらう。然し社會はどこまでも婦人の最高使命たる母性に對して之が保護を怠つてはならぬ。

四、我が國民の健康状態

こゝで少しく我が國民の健康状態はどうであるかを明かにしてをきたい。

(一) 各國並本縣の一般死亡率

一國一社會の健康状態を知る爲には、その罹病率と死亡率とを明かにせねばならぬ。罹病の統計は未だ全國的に明かに研究されてゐないが、死亡統計は殆ど完全になつてゐるから、これによつてわが國の健康状態を知るのである。

今次に明治十九年以來、每五ヶ年平均の死亡率がどう變化して來たかを歐洲の數ヶ國のそれと比較して掲げてみやう。(人口千に對する一般死亡率)

年 度	日 本		獨 逸	
	本	乙	本	乙
一八八六—一八九〇	二〇、六	二四、四	一八、六	二二、二
一八九〇—一九〇〇	二〇、七	二二、二	一九、〇	一七、五
一九〇〇—一九一〇	二〇、九	一九、〇	一九、一	一九、〇
一九一〇—一九二〇	二〇、六	一九、〇	一九、二	一九、〇
一九二〇—一九二五	二一、九	一九、〇	一九、二	一九、〇
一九二五—一九三〇	一九、四	一九、〇	一九、二	一九、〇

英	一八、九	一七、七	一四、七	一四、五	一二、二
和	二〇、五	一七、二	一四、四	一三、七	一〇、四

之で明かである通り、わが國現今の死亡率は一九二六—一九三〇年に至り始めて低下したが大體明治二十年前後の死亡率よりも高いのであつて、換言すれば四十年前の時代よりも、今日の方が健康状態は面白くないのである。我國文明は長足の進歩をした。日本の醫學は世界に誇る可き進歩を示してゐると云ふのに死亡率で推察せられる健康状態は、決してよろしくなつてはゐないのである。しかも各國の死亡率は年と共に非常に低下してゐる事に注目せねばならぬ。

尙大正十五年昭和元年以降に於ける我國平均と本縣平均とを比較すれば次の通りである。

年度		一九二六	一九二七	一九二八	一九二九	一九三〇 (昭和五年)
全	國	一九、二	一九、八	一九、九	二〇、〇	一八、二
靜	岡	一八、一	一八、〇	一八、六	一八、七	一七、八

即ち一九三〇年に至り始めて從來に見ない低下を見た。而してわが靜岡縣は全國平均より稍々低位にあるは喜ぶ可きも、本縣の如き恵まれたる氣候風土を以てしてこの數字は決して低いとは稱されないのである。新西蘭ニュージーランドの如きは僅かに八、五(一九二八年)を示してゐるに過ぎない。

(二) 乳兒死亡率

以上は一般死亡率に就てであるが、一歳未満の乳兒死亡率を同様に比較して見やう。數字は生産百についての死亡數を示してゐる。

年度	一九二六	一九二七	一九二八	一九二九	一九三〇 (昭和五年)		
日	本	一一、七	一五、三	一五、七	一七、四	一五、九	一三、七
獨	乙	二〇、八	二〇、一	一七、四	一四、五	一一、二	—
英	國	一四、五	一五、六	一一、七	九、一	七、六	—
和	關	一七、五	一五、一	一一、四	八、四	六、〇	—

この數字を注意して見ると我國の乳兒死亡率は一九二六—一九二〇年の一七、四を頂點として逐年増加し一九二六—一九三〇年に至り稍々低下したが、他の國々は年を逐ふて減少してゐる。尙大正十五年昭和元年以降に於ける我國平均並本縣平均とを比較すれば左の通りである。

年度		一九二六	一九二七	一九二八	一九二九	一九三〇 (昭和五年)
全	國	一三、七	一四、二	一三、八	一四、二	一二、四
靜	岡	一二、一	一二、五	一二、八	一二、八	一一、三

即ち一九二二—一九二五年の一五、九に比すれば低下を示せるも年度的に大なる相違もなく、唯五年度に始めて一二、四と云ふ未だ嘗て見ない低率を示した。本縣は之等に比し更に低位にあるも前述の如く本縣の氣候風土を以てしては之を誇とするに足らず、しかも一九二六年以降増加の傾向すら示してゐる事は洵に遺憾に堪えぬ。英米は近年七、〇（一九二七年）を示してをり新西蘭の如きは實に三、六（一九二八年）を示してゐるに過ぎないのである。

之を要するに一般死亡率に見るも、乳兒の死亡率に見るも、わが國現在の健康状態が以前と比較して見て、又他の國のそれと比較して見て決して愉快を感じる状態でないことを確か知り知つて置かねばならぬ。

今や國家多難多事、この難局打開の途は一にして足らぬであらうが、優秀なる智能と強健なる體力を以て専念汗を流して働くにある。

強健優秀なる國民は先づ乳幼兒の合理的愛護に始まらねばならぬ。「強く生み、健かに育て、賢く導く」それ以外に何ものもない。

こゝに現代婦人のより健康さと乳幼兒に對する正しき認識、母性としての自覺を要する。赤ん坊は生れ乍らに潑刺たる生命の力をもつて伸びてゆく。然しその力は尙保護され更に力づけられね

ばならぬ。然し今日我國に乳幼兒に對するどれだけの正しい育児法、合理的社會的保護が講ぜられてゐるであらうか？。

(三) 各國民の平均壽命

一般並乳兒死亡率が高ければ國民の平均壽命が短いことは當然である。之を二三の國と比較して見やう。〇歳とあるは平均壽命で、一〇歳二〇歳は現在一〇歳二〇歳まで生きてゐる者の其の後の平均餘命である。

國	調査年度	性	〇歳				一〇歳				二〇歳				三〇歳				四〇歳			
			女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男		
日本	一九二一—一九二五	女男	四三、一一	四二、一一	四六、〇五	四七、〇五	三九、四一	四〇、四一	三二、七六	三三、七六	二五、一一	二六、一一	二八、一一	二九、一一	二五、一一	二六、一一	二八、一一	二九、一一	二五、一一	二六、一一		
英國	一九〇一—一九一〇	女男	四八、四五	四九、四五	五四、五八	五五、五八	四三、八〇	四四、八〇	三七、四八	三八、四八	二七、四〇	二八、四〇	二九、四〇	二七、四〇	二八、四〇	二九、四〇	二七、四〇	二八、四〇	二九、四〇	二七、四〇		
米國	同	女男	四九、五三	五〇、五三	五二、九九	五三、九九	四四、四四	四五、四四	三三、八八	三四、八八	二七、三六	二八、三六	二九、三六	二七、三六	二八、三六	二九、三六	二七、三六	二八、三六	二九、三六	二七、三六		
獨逸	同	女男	四四、三八	四五、三八	五一、四二	五二、四二	四四、八六	四五、八六	三三、九六	三四、九六	二六、二六	二七、二六	二八、二六	二六、二六	二七、二六	二八、二六	二六、二六	二七、二六	二八、二六	二六、二六		

即ち各國共男より女の壽命は長いが我國民の平均壽命は他の國々が五〇年餘なるに對し四二、

三年に過ぎないのである。

(四) 主要死亡原因

次に一ケ年百二十萬餘の死亡者を出してゐる我國の健康状態が一體如何なる疾病で斯くも多數の死亡者を出してゐるか、その主要原因を明かにする必要がある。今一萬五千以上の死亡者を出す主要死亡原因一八と其の各々の死亡實數並に比例數を次に掲げやう。

主要死亡原因

内地最近五ケ年 (自大正十三年一九二四 平均 至昭和三年一九二八)

死 因 名	死 亡 實 數	總 死 亡 千 中	人 口 千 = 付
總 數	一、二二五、四九六	一、〇〇〇、〇〇〇	二〇、〇七
一、下痢及腸炎	一四六、二四六	一二〇、三二	二、四二
二、肺炎及氣管枝肺炎	一二一、二七七	九九、七八	二、〇一
三、腦出血腦軟化	一〇〇、三二〇	八二、五三	一、六六
四、畸形、先天性弱質、乳兒ニ固有ナル疾病	八三、二九五	六八、五三	一、三八
五、肺 結 核	八二、五三三	六七、九〇	一、三六

六、老 衰	七二、七一二	五九、八二	一、二〇
七、腎 臟 炎	六〇、九二〇	五〇、一二	一、〇〇
八、腦 膜 炎	五八、五一五	四八、一四	〇、九七
九、癌	四一、三八六	三四、〇四	〇、六八
一〇、心臟ノ器質的疾患	三七、六三五	三〇、九六	〇、六二
一一、外 死 因	二六、七〇七	二一、九七	〇、四四
一二、胃 ノ 疾 患	二四、〇六九	一九、八〇	〇、四〇
一三、腸及腹膜ノ結核	二二、九九二	一八、九二	〇、三八
一四、腹膜炎(産ニ因スルモノヲ除ク)	一九、八八二	一六、三六	〇、三三
一五、急性氣管枝炎	一七、九五二	一四、七七	〇、三〇
一六、肋 膜 炎	一六、二七二	一三、三九	〇、二六
一七、慢性氣管枝炎	一五、五七五	一二、八一	〇、二六
一八、脚 氣	一五、〇八九	一二、四一	〇、二五

下痢及腸炎とか肺炎及氣管枝肺炎とか先天性弱質とか云ふ病氣は主として乳幼児を襲ふものであり、肺結核、腸及腹膜の結核、腹膜炎、肋膜炎、脚氣等は主として青年男女を冒すものである。

五歳未満の乳幼児は抵抗力が弱いので以上のやうな病氣の爲に左右されることが多いのであつて總死亡の約三割八分を占めてゐるのである。實數でいへば大正十三年から昭和三年に至る五ヶ年平均では一ヶ年四十五萬八千四百餘が死亡してゐるのである。

十五歳から三十歳までの青年はどれ程死亡するかといへば矢張五ヶ年の平均で男六萬五千五百七十九名、女七萬四千八百九十四名である。

(五) 年齢階級別死亡率

次にうるさいやうではあるが大變に重要であるから年齢階級別に死亡状態をあげやう。

年齢階級別死亡 (自大正十三年五年平均) (至昭和三年五年平均)

總數	死亡實數		各性死亡千中	
	男	女	男	女
〇—四歳	六二五、〇二九	五九〇、四五四	一〇〇〇、〇	一〇〇〇、〇
五—一四歳	二四一、三九四	二一七、〇三四	三八六、二	三六七、六
一五—二四歳	二五、四九八	三〇、〇四四	四〇、八	五〇、九
	四七、二七八	五四、一七五	七五、六	九一、八

一五—三四歳	三二、八四三	三七、八二四	五一、六	六四、一
三五—四四歳	三二、二八〇	三二、九六〇	五一、七	五五、八

この表を丁寧に注意して見て頂きたい。四十五歳以上は略するが男女別に數字の表す意味を探り乍らこの數字を見ると痛ましい事實が分るのである。

乳幼児の死亡が如何に多いかは既に述べた。五—一四歳即ち幼稚園小學校年令期のものは最も死亡すること少ないのであるが、次の年齢階級である一五—二四歳は非常に多いのである。而かも五歳以上何れの階級をも通じて、女の死亡が男の死亡より多いのであるが、特にこの一五—二四歳の女子青年に於てそれが最も強く甚だしく現れてゐるのである。

今十五歳以上二〇歳未満の各國に於ける處女の死亡率を比較してみやう

(同年齡下に對する死亡率)

調査年	日本	米國	英國	獨逸	乙	丁	抹	新西蘭
一九二五	一九二五	一九二五	一九二七	一九二八	一九二六	一九二六	一九二六	一九二六
死亡率	九、六	三、二	二、四	二、三	二、一	一、五	一、五	一、五

之に依つて我が國處女が如何に痛ましく蝕ばれてゐるかを知る事が出来やう。
乳幼児の死亡が多い。

青年の死亡が多い。

殊に女子青年の死亡が多い。

と云ふことが外國と比べてわが國の困つた特徴なのである。

(六) 結核死亡率

青年男女の高い死亡率は之が病因を殆ど結核性疾患に歸することが出来る。どこの國でもこの病氣の爲には絶えず苦しんでゐるが、わけて我が國に多いのは悲しむべき事である。こゝに各國に於ける状態を比較して見やう。

調査年	人口一萬ニ付 呼吸器結核死亡	同上其他ノ結核 死亡	計
一九二七	一三、九四	五、五三	一九、四七
一九二七	七、八	一、五	九、三
一九二七	七、九一	一、〇八	八、九九
一九二七	六、八	〇、九三	七、七三

調査年	丁 抹	新 西 蘭
一九二六	六、二	三、八八
一九二七	一、〇	〇、九八
	七、二	四、八六

即ち我國に於ける結核死亡率は右の如く高いのであるが、特に悲しむ可きは歐米諸國の如く累年著るしき減少を示さず寧ろ益々増加の傾向すら認められることである。

今大正十四年より昭和四年に至る最近五ヶ年間平均の全國並本縣の實狀を示せば左の如くである。

全 國	肺 結 核		其 他ノ 結 核		計	
	實 數	總死亡ニ對スル千分比	實 數	千分比	實 數	千分比
八四、三三九	六九、三	三三、九七三	二七、九一一	九一、三二二	九七、二	
本 縣	一、三二二	七一、〇	七五九	一三、三	三、〇七一	九四、三

即ち總死亡千に對する全結核死亡率は本縣の方稍々低きも肺結核は例年本縣の方が高率を示してゐるのである。

今昭和四年度に於ける狀況を見るに我國の總死亡百二十六萬一千二百二十八人中この結核病の

爲に死亡せるものは十二萬三千四百九十人で即ち總死亡に對する千分比九七・八、人口一萬に對比すれば一九・六を示してゐる。而してこの中八萬八千四百四十人は肺結核によるものであつて尙肋膜炎、腹膜炎等の如き結核性疾患と認めらるゝものを加へるとしたら之等結核性疾患の爲に死亡する國民は實に夥しい數に上るであらう。而して現に結核病の爲に悩める患者の確數は不明であるが大體死亡者の十倍以上即ち百二十三十萬人は存在すると言はれてゐる。

而かも特に寒心に堪えないのは之等死亡者の年齢が有爲の青年男女であり、今働き盛りの人々に多い事である。是は我が國力進展上寔に痛恨の極みであつて、有爲の青年が高い理想と大きな志望に輝く胸を抱き乍ら、又美しい處女が華かな未來を夢見乍ら、或は若い母が可愛いゝ子と百までもと契つた夫を残してこの病の爲に斃れゆくと云ふことは、何と悲惨なことではあるまいか。

翻つて本縣に於ける状況を見るに、昭和四年度に於ては總死亡三萬三千二百三十九人中結核死亡者は三千八十九人で、この中二千三百五十九人が肺結核なのである。

尙昭和五年十月一日現在に依つて行はれた縣醫師會の病勢調査によるに、同日現在で縣下約一千の醫師の治療を受けつゝあつた諸種疾病の患者數は、三萬一千三百九十五人、同日國勢調査人口に對比すると人口一萬に對する患者割合は一七四・六三であつて、この中二千八百六十四人内)

肺結核二千三百九人)が結核患者であつた。即ち種々の疾病で治療を受けてゐるもの百人中九人強が結核患者なのである。而して之を死亡率から推定すれば本縣に於ける結核患者は三萬人以上に達すべき筈で、以上の二千八百六十四人の結核患者は單に十月一日現在に於ける數ではあるが其にしても結核患者にして現在醫師の治療を受けてゐないものが實に夥しい數に上つてゐる事に驚かざるを得ない。

ペーリングは「大人の結核は搖籃時代の子守歌の名残である」と云ふ美しい警句で説き盡してゐる。結核の感染は遠く小兒時代にある。結核豫防の要諦は子供を強く生み健かに育て、大人自身も常に健康の増進を期するにあるのみである。

之を要するにわが國の健康状態はどうしてかう悪いのであるか。

日本の醫學は進歩してゐる。然しその進んだ大學研究室内の醫學がどれだけ國民生活の實際の上に應用されてゐるのか。結核患者は多いのに醫師の診察を受けてゐる者は餘りに少い。之は一體何を物語つてゐるのであるか。

あゝ貧と病弱の國日本!

吾人は之をこのまゝ看過していいのであるか。

二八

五、健康への要諦

吾々は眞剣になつて働かねばならぬ。そしてこの底知れぬ經濟國難を何とかして打開し、もつと明るい愉快な住みよい世の中、もつと健全な新興日本を現出せねばならぬ。働いてもくく唯汗は無駄に流れる、舌働かんとしても働く可き仕事と與へられないのが現代相であると或るものは言ふかも知れない。其も大に爲政者は考へねばならぬであらう。然し現在働いてゐる人達に就ても又その働き方にも、もつとくく考へて見ねばならぬものがないだらうか。

とあれ、何れにしても先づ心身の健康が必要である。

元より乳幼児も少年も青年も壯年も老年も誰として不健康であつていい者はない。吾人は生きてゐる間、よりよい働き、愉快な生活をする爲に健康への行をつまねばならぬ。

健康への要諦とはさう目新しい難しい知識ではない。分り切つた當然の衛生を唯毎日、吾々の生活の中にくく實行すればいいのだ。「千の標語よりも一の實行」である。唯知識のみの衛生は何の價値もない。「知つてゐるだけではないけない、實行しなければならぬ」と云ふ事を知つて

ゐるだけのものが現在餘りに多い。

實行は即ち實行であらねばならぬ。

先きに「疾病とは何ぞ」「衛生とは何ぞ」として述べたやうに

疾 病 〓 外 因 〓 内 因 ・ 外 因
抵 抗 力

であるので、健康となる爲には先づ可及的外因を小にし之に近づかさるやうにすると共に抵抗力の増大に努力するにある。其は他なし、病んで藥を求め前に日常吾人の生活の仕方を可及的衛生的に合理化するにある。

内因的要約に基く虚弱、疾病はその改善は中々容易ではないが、次に述ぶるところの平凡な諸條件が吾人の日常生活化する時、我が國民の健康状態は今日より遙かに増進するものである事を確信する。以下簡單にその要點を述べやう。

(一) 適當な榮養

難しい理窟を抜きにして食物は大食を避け、大食することなしに、いろくなものをよく咀嚼して、快く食へることが最も必要である。よく嚼みもせず早食大食過食してゐて瘦せてゐるからどん

な薬を飲んだら肥へるか胃腸をこはしたから薬を下さいと醫師に頼るよりも、何でもよく嚼んで腹八分目に食ることがどんなに経済的でしかも健康上大きな効果を齎らすか蓋し想像以上であらう所謂美食家は動物性蛋白質が過剰で害をなし、農村では一般に之が不足になり勝ちで特に女子に於て然りである。粗食するのが決して女子の美德ではない、農村婦人の早老の傾きあるは栄養に關係する所決して少くないと思ふ。食物は毎日の食膳に適當な栄養食が献立されねばならぬこの點に於て屢々見る處女會の今日の農村經濟を無視した技巧一點張りの料理講習は一考三省を煩す要がある。須く現代の一般家庭に於ける調理法には次の條件が充されねばならぬと思ふ。

- 1、栄養價值あること
- 2、可及的安價なること
- 3、可及的簡單に出来ること
- 4、材料は特に新鮮なるを選び取扱は清潔を旨とすること
- 5、食べてうまいこと

而して之れ必ずしも不可能ではない。現代女性はもつと頭を働かして工夫してみる必要がある。

(二) 新鮮な空氣と充分の日光

この必要さは今更多言を要しない。然し吾人日常生活に於て、強いて或は止むなく不潔なる空氣を吸入し、日光を避けてゐる事が決して少くない。日光も空氣も唯である。吾々は進んで力めて常に自然に親しみその恵みに感謝し充分これらを取り入れることのみによつても吾人の健康はどんなに増進するか知れない。被服類も屢々風をとほし日光に曝らさねばならぬ。特に農村住宅の改良はこの點に留意するの切なるものがある。濕氣の多い暗い風通しの悪い住宅も僅かの工夫と經費によつて、もつと健康的な家に改善さるゝものあるを思はねばならぬ。

(三) 適度の刺戟

以上の三條件によつて生活現象が營まれる、之をよりよくする爲にこゝに適度の刺戟を必要とする。

健全なる身體に健全なる精神宿り、健全なる精神は益々其の身體を健全にする。そしてより健康への爲には其の何れをも更に積極的に修練せねばならぬ。即ち合理的體育運動と適度の勉學修養が之である、兎角學校を卒業すれば運動も勉強もしなくなり心身の緊張を缺く、殊に女子に於て甚だしい。

特に適當な運動は栄養と相關聯して皮膚毛髮の色艶をよくし、筋肉の發達と共に曲線美を益々

豊かにし精神をも快活とするので表情も明るくなり、いつも若々しい美しさを充滿せしめる。又常に讀書とか相當の勉強をしないと早く老老する。現代女性美の典型は肉體の豊かさと共に理智のひらめきを必要條件とする。

(四) 充分の休息と睡眠

刺戟を加へ生活機轉が高まればそこに疲勞が起る。必要な刺戟も之が強過ぎたり、餘り永く繼續すれば遂に過勞に陥り反て健康を障碍する。故に軽い疲勞の後には適當な休息が與へられなければならぬ。斯くてこそ次の刺戟が最も適切な効果を現すのである。そして更に完全な疲勞回復の條件として充分な睡眠が必要である。よく働かんとするものはよく休むことを知らねばならぬ。

(五) 清潔と規律

いかなる場合にも、いかなる物にも又勿論身體的にも常に清潔を第一とせねばならぬ。便秘も一つの不潔である。日本婦人に多い便秘の悪習慣、これを正しくすることだけに依つても女子の顔色はもつとよくなるだらう。便秘することは下痢する事と同じだと思ふがよい。

全てに清潔が徹底することによつて、どんなに疾病が減じ我が國の健康状態が改善されるかわからぬ。

又規律正しい生活をすることは健康の増進上に緊要缺く可からざるものである。然し一般に日本人の生活は特に婦人の生活は極めて不規律になり易い。

自然は美しく清らかであり、一日一年春夏秋冬は實に規律正しく繰り返へされる。

自然にかへれ！吾人はこの大自然の心を心として精進せねばならぬ、そこに必ず喜びの健康が持ち來される。

尙其他細説すれば衛生上注意すべき點尠しとしないが、以上五項七條件が吾人の日常に生活化するならば健康の増進は請合である。

終りに尙一言附加したきは世に誤りたる養生家、衛生家があることである。過般健康相談に來られたあるお子さんの家庭では子供の疫病がこはいからとて一切生の果物を與へず、子供の外出を成る可く禁じ庭へ出ても連れ上つて消毒薬で手足を拭ふのだと云ふ。成る程徹底した清潔法ではあるが寧ろ滑稽ではないか。風邪を引かしては大變だと無暗に厚着をさせるのも亦この類を出でない。否育兒法に於てのみではない。胃腸が少し弱いからとお粥ばかりすゝつてゐるもの、一寸熱があるからと日に何十遍となく検温してゐるもの、擧げれば數限りもない。之れ等を全て疾

病恐怖症と云ふ。唯戦々兢兢々として病を之れ恐る、其が決して養生家、衛生家ではない。然し世人日常、疾病を「病氣」を云ふ、氣を病む病氣の如何に多いかを物語つてゐるものであらう。眞に健康への途は敢然病と闘ふの緊張せる精神を確立して日常健康への條件を行するにある。

但し病を知らず、盲目蛇に怖ぢざるの積極論者も亦過誤である。「雨の降る日は天氣が悪い」と知れ。昨日まで上天氣で草履ばきで歩いてゐたからとて今日の雨天に傘もささず草履で歩く馬鹿があるものか。

○

健康とは何ぞ、疾病とは何ぞ、衛生とは何ぞ、我が國民の健康状態は如何、しかしして現代女性の使命は？ どうか之等を正しく認識して、そして諸姉は先づ何をなさねばならぬかをよく考へてみて頂きたい。

六、處女期の特殊衛生

(一) 婦人病の悩み

婦人の疾病の中で所謂婦人科の病氣位人知れず心配するものはないらしい。外の病氣なら直ぐ

に醫師の診察を受けたり、他人に訴えたりするのに、婦人科の病氣になると恥しさが先になつて他人にも聞けず又醫師の診察を乞ふの勇氣もなく、一日延ばしに延ばして遂に不治の慢性疾病を來し又新聞雑誌の廣告に惑ふて更に増悪させ、終生の不幸の淵に沈淪する者が決して少くないと思ふ。殊に婦人生殖器病は既婚婦人に特有であつて處女にはないやうに考へてゐる者の少くないのは大なる誤解である。

毎日毎月の新聞や婦人雑誌を開けば、腔殺菌劑とか性病豫防劑とか、婦人病特效藥とかの不快な賣藥廣告が何と多い事だらう。「白帶下は女の命取り」とか、人知れず悩む女の心配は月やく滯り、不順、困難……」とか、「特殊流經劑……月經閉止四五ヶ月以内に確實の流經作用を以て容易く安全に應用の目的を達する特殊の効力を有せり」など、不都合にも墮胎を暗示したやうなものさえある。毎日毎月しかも數十の新聞雑誌に高い廣告料をはらつて掲せてゐる所のもは又需用者の相當あることを裏書してゐるものであることを思ふと、慄然たらざるを得ない。

生殖器といつた所で其は心臟や肺臟や胃腸と同じ身體内の一機關ではないか。故らに差別扱ひをしてその疾病をまで秘密にして獨り煩悶する必要もない。

しかも例へば、月經の前後に白帶下（腔から出るねばくした少し臭氣のあるおりもの）があ

るからとて少しも心配のいらぬことを、非常に重い病氣のやうに考へて徒らに獨りで悩んだり初期なら直ぐ癒るものを手遅れをした爲に慢性の疾病にしたり、くだらぬまことしやかな廣告に迷つたりするのは、皆自分が女であり乍ら女子の身體に關する特殊の生理的現象に關する智識を有しないからである。

以下女子生殖器月經並其の攝生法等に就て述べてみやう。只こゝにお断りしておきたいことは文字に多少皆さんの日常顔を赤めたり開く可からざる言葉のやうに誤解してゐる言葉が出て來ると思ふが、其は前にも述べたやうに重要な身體内の一機關としての醫學的術語であつて、淫らな意味を表してゐるものでないことを念頭にをいて讀んで頂きたい。

(二) 女性生殖器

女性生殖器を外生殖器と内生殖器との二つに別ける事が出来る。

- (イ) 外生殖器とは身體の外部から認めらるゝ部分で之に外陰部と乳房とがある。
- (ロ) 内生殖器は左の四つから成つてゐる。



- (1) 腔
 - (2) 子宮
 - (3) 輸卵管 (又は喇叭管と云ふ)
 - (4) 卵巢
- (1) 腔は尿道と直腸との間にある膜様擴張性を有する管道であつて下端は外陰部に開口してゐる腔口に始まり上端は子宮に連つてゐる。そして腔口には處女膜と云ふ輪狀をした薄い膜がある。
- (2) 子宮は厚壁の臓器で梨子状を呈し、前後に扁平で中央で少しく絞れ體部頸部底部の三部に分つことが出来る。頸部は子宮腔部を以て腔の奥に垂下し、こゝに子宮口が開いてゐる。そして子宮口から小管によつて子宮腔に



通じてゐる。子宮腔は三角形をなしてをりその左右二頂點から細い紐即ち輸卵管が出てゐる。子宮腔は輸卵管で受精した卵を容れ之を養護發育せしむる場所である。

(3) 輸卵管の尖は喇叭狀に稱々太くて瓣狀にわかれ(剪線)口は明きはなしになつてゐる内面の粘膜の表面には絨毛と云ふ頗る細微の毛が生えてゐて卵を子宮の方へ送るやうに動いてゐる。

(4) 卵巣は輸卵管の下で少し後方に各側一個づゝある。

之は桃の核程の大きさで扁平な長圓形をしてゐる。

(三) 春機發動期

少年少女期から生殖器成熟期に移り變る時期を春機發動期(青春期、破瓜期)と云ひ、一般に女子は男子よりも早く十三四歳に始まる。即ちこの時期になると肉體的には皮下脂肪層が發達し身體顔貌共に豊滿となり皮膚は光澤を増して耻毛を生じ、乳房はふつくりと柔らかなふくらみを持つて所謂女性の美しい曲線をあらはす、精神的には快活であつた娘が何となく陰鬱になつたり陰鬱であつた者が俄かに快活になつたり、又食物の好き嫌ひが甚だしくなつたり、種々變つてきたりすることも少くない。特に著るしく異性に對して羞耻心が起つてくる。この頃排卵機能及月經が開始するのである。

(四) 排卵機能

卵巢の中には小兒期から肉眼では見えぬ極めて小さい球狀の袋のやうなものが少くも三萬位あつてこの中に一個づゝの卵を有してゐる。この丸い袋を原始濾胞と云ふ。春機發動期になると其の濾胞の一つ宛が次々追々と發育して大きくなり中に液體を含む。成熟濾胞となると漸次卵巢の表面の方に出てきて遂には愈々濾胞内液體の増加による内壓に耐えきれず破れて内部の卵は液體と共に腹腔内にはじき出される。この働きを排卵機能と云ふ。

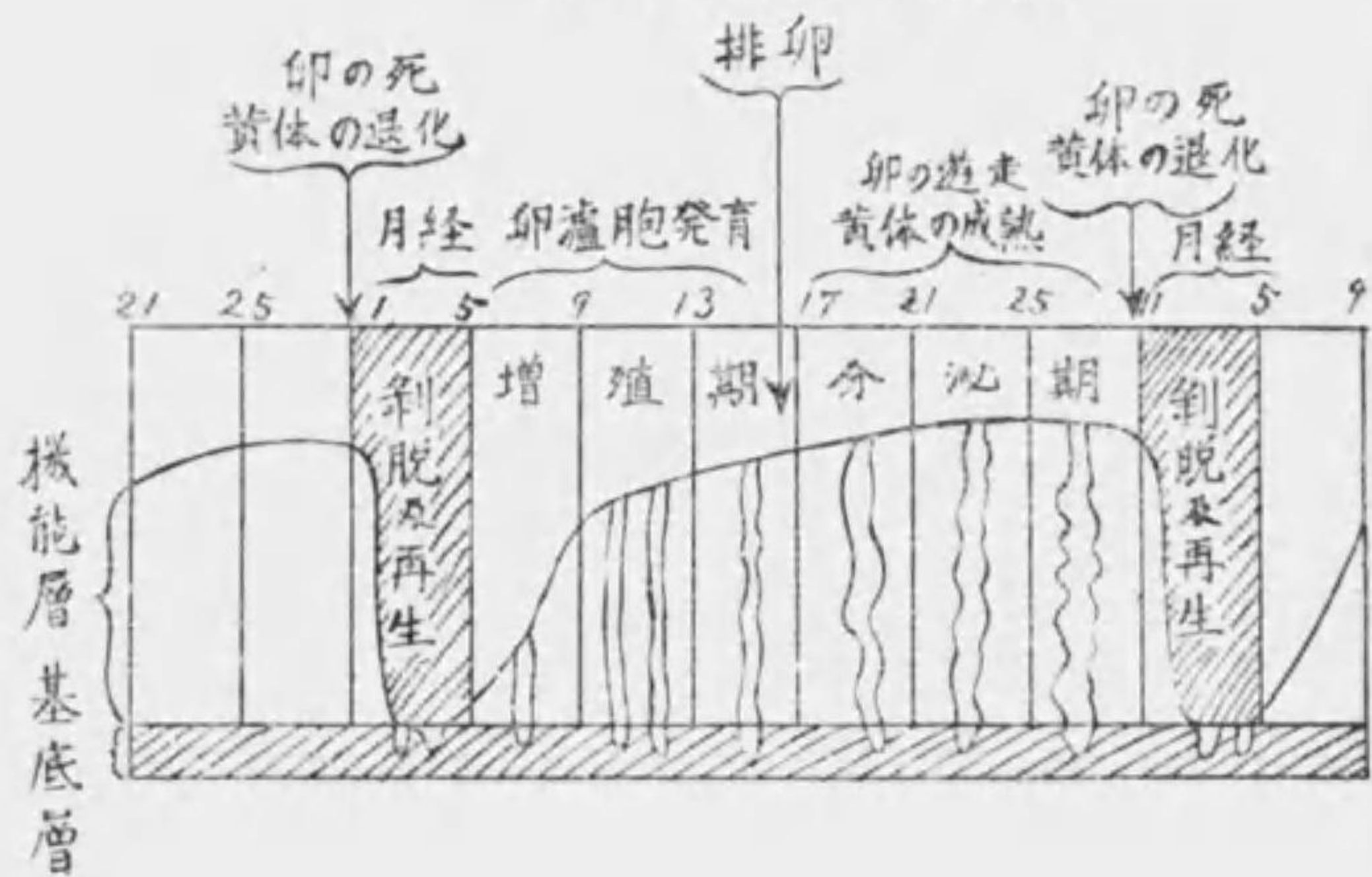
斯くてこの卵が輸卵管剪深に達すると、その粘膜の絨毛の働きによつて子宮に向つて送られその輸卵管内に於て多くは受精するのである。この排卵機能は春機發動期から始まつて凡そ四週間に一度位づゝ起り、三十乃至三十五年間位即ち四十五六歳から四十七八歳の所謂更年期まで即ち月経のある間の年齢まで起るのであつて、妊娠し得べき年齢も亦この期間である。

(五) 卵巣機能と子宮との關係

卵巣からは又特殊の内分泌液即ち「ホルモン」が出て之によつて女性としての特徴が現れるのである。故に今試みにこの二つの卵巣を摘出すると、その女は漸次男らしい性質になり、聲變りして男のやうな聲になり、皮下脂肪も減つて男性のやうな體型となる。然し再び手術的に卵巣を植えつけると今度は又漸次もとの女らしくなる事が實驗される。

この内分泌の働きは又月経に大きな關係を有してゐる。月経に就ては詳しく後述するが、普通四週間に一回繰返されるもので、この中前後各十日間を除き中央の約八日間は子宮内膜（子宮腔の内壁）が最も尋常の状態に休息してゐる時期即ち間歇期であつて、かの卵巣で排卵の行はれるのは恰度多くはこの期間である、而して排卵したあとの成熟濾胞中には始め破れた血管から出た血液が満されてゐるが、間もなくこの殘骸濾胞は黄色に變る。之を黄體と云ふ。この黄體から

第三圖 月経週期の模型



内分泌液が出て直接血液中に入つて子宮内膜に働けば、其の内膜は間歇期の倍位に充血腫大する。この時期を月経前腫張充血期と云ふこの期が約十日位つゞく間に充血した粘膜組織間に出血を來し此等の血液が子宮腔に出て即ち月経となるのである。

一體この充血腫張は決して無意味に月々起るのではなく榮養分に富んだ血液を充し腫張した厚い粘膜の布圍を布いて受精卵の到來を待つてゐるので即ち妊娠の準備なのである。而してこの受精卵が到來せぬと、その充血腫張ももう不用になるので、その血液は子宮腔内に出血して子宮口から腔を通過して外に出で腫張した粘膜も舊に復するのである。故に「月

經は受胎しない卵の流産である」と云ふことが出来る。(受精現象については後編遺傳の項で詳述する)

(六) 月 經

月經とは前述の如く生殖器成熟期間に於ける規則正しい間歇を以て週期的に繰り返す子宮出血を云ふのである。月經は又「月やく」「月のもの」「めぐり」「さわり」などと云ふ。

(イ) 月經の初汐

月經の始めて起るのを初汐又は初經と云ふ。我が國の初汐は數へ年十五六歳位で平均滿十四年八ヶ月である。然し月經の初汐は種々の事情によつて左右され、例へば人種、氣候、遺傳的關係、社會的地位、貧富、生活方法、環境等によつて遲速がある。南方佛蘭西人は平均十三年、瑞典は十六七年、伯林では十五年七ヶ月、倫敦では十四年九ヶ月であるが黑人の如きは極めて早い。普通温暖の地、地位の高きもの、富めるもの、教育程度高きもの、都會地のもの、花柳社會に成長せるもの等はその然らざるものより早いと云はれてゐる。

本縣での調査によれば平均十四年二―四ヶ月で我國平均に比し稍々早いやうである。一般に八五―九〇%は十三歳乃至十八歳までの間に月經の初汐をみるものである。

(ロ) 月經の型並持續及周期

月經の型は月經の持續周期の長短出血量等によつて定まる。

月經の持續日數は各人によつて相違するが普通三、四日か五、六日間のものが多い。

月經の周期は大多數に於て四週間に一回(月經の第一日から次の月經の第一日に至る間)であるが、時として三週間に反復する人もあるし、又二十八日に對し毎月二三日宛早くなつたり、又遅くなる人も少くない。

よく「月經が不順で毎月二三日早くなります」と云ふやうな言葉を聞くことがあるが其は勿論順調なので、持續日數が一日二日や或は七八日位あつても又其の周期が三週間に毎や五週間に來ても、自分自身のものが常に正しく反復すれば其は正調であると云ふ事が出来る。勿論健康な人であつても多少の變動のあるのは免れない。只持續日數がいつも不定であつたり、定期的に四週毎にあつたものが二ヶ月も三ヶ月もとぶこともあると云ふのが不順なのである。

月經血量(毎月經時出血の全量)は精密に計ることは困難であるが大凡九十乃至二百瓦が普通である。而して經血は稍々暗黒色で凝固しない性質をもつてゐる。

初汐時の月經は多少趣きを異にし、一定の型がなくて寧ろ不規則であることが多く其の持續も

短かく血量も少い。而してその翌月になつて月經のある事もあるが其は寧ろ稀れで多くは數ヶ月乃至一ケ年位も全く中止して後初めて一定の各自固有の月經の型をあらはすやうになる。

月經時出血の経過は急に來て急になくなるものでなく、除々に出血が初まり除々になくなるものである。

多くの場合月經の前には白帶下（膾からのおりもの）が増加し月經の近づくに従つて次第に血色を帯び遂に純粹の血液となる、そして二日又は三日目に最もその量多くなりそれから漸次減少してくる。時に終り頃に半日位全くなくてそして又少し出血することもある。普通「こしけ」は婦人生殖器病に來る一症候なので大變心配する人があるが月經前後に多少の「こしけ」があること云ふ事は普通で何等心配するにたらない。

(ハ) 閉經期（更年期）

月經閉止の時期は一時に突發するものでなくて先づ月經の持續短縮し間歇延長し經血量も減少し、斯くて半年乃至二三年の後に始めて全く閉止するに至るものである。この時期を閉經期（更年期）と云ふ。この年齢は普通四十五乃至五十歳位である。そしてこの時期には一般に逆上、眩暈、耳鳴がしたり眠れなかつたり、氣分が變り易くなり、神經質の婦人は特に其の症狀著るしく

憂鬱、ヒステリー症狀等を來すものが多い。

(ニ) 月經の症候

月經の際には何等身體に變りのない人もあるが、全く健康な人でも多くは多少の異常を感じるものである。之を月經痛と云ふ。そしてこの月經痛は全ての人の約三分の一は月經前に來り月經中に來るもの三分の一その兩方に亘るもの約三分の一である。

その症候としては即ち下腹部や腰が痛んだり、お腹が張るやうな氣持がしたり、屢々尿意をもようしたり、足が引きつるやうに感じたりする。その外身體がだるく頭痛がしたり或は食慾が進まず何となく氣分が悪く、時に下痢嘔氣などを來す等、種々の胃腸病のやうな症狀を呈したり、又心悸が高まり、或は脈搏が不整になつたり汗が多く出たり足が冷えたりする等循環器障碍の症狀をあらはしたり、又非常に興奮したり或ひは反て氣が沈む等の神經症狀を呈したりすることもある。

以上の症狀が餘り強くて日常の仕事をさまたげ臥床しなければならぬ程度のもものは之を病的と見なさなければならぬ。

(ホ) 月經の生理的中絶

月經が疾病の爲に中絶する場合は別として生理的に中絶するのは、前述のやうに月經の初汐時
 妊娠、並授乳中である。尤も産後授乳中でも比較的早く月經の來汐する人も少くない。

(七) 月經の攝生

月經は生理的現象であるから特別の處置を要しないわけであるが、然し多少の身體的異常を伴
 ひ且つ屢々之が不攝生の爲め婦人病や其他の健康障壁を來す事があるので月經中は注意して攝生
 法を守り健康の保全を計らねばならぬ。

月經時の注意として最も必要なことは、身體及精神の安靜局部の清潔である。

(イ) 身體及精神の安靜

月經時には子宮は柔軟となり充血腫脹してゐるのでいろ／＼な障壁を起し易い。故に腰部に血
 液の集るやうな入浴や激しい運動は之を避けなければならない。勿論日常の仕事は普通にやつて
 差し支えなく、新鮮な空氣を呼吸し充分日光に浴する戶外散歩の如き適度の運動は常に反て必要
 なのであるが、登山とか遠足其他相當激しい平素馴れない運動は避けねばならぬ。

學校に於ける體操も病的月經の人は別として競技跳躍蹶足等特殊な強い運動でない限り、よく
 處置をして行へば普通の體操は何等休む必要はないと思ふ。從來月經時の體操に就て餘りに消極

的態度をとり過ぎてゐたやうに思はれる。

本縣には女學生の自轉車乗用が可成り多いのであるが、月經時の乗用は多少經血量の過多を來
 すものが多く避けた方がいゝが然し自轉車通學の如きは止むを得ざる必要さからの乗用で、月經
 時だけ止められる位なら日常も徒歩通學がいゝのであつて、之は相當困難であるからこの場合は
 サドルの狀況とか疾走の速度とか衛生上の諸注意を怠つてはならぬ。

尙前にも述べたやうに月經時には精神が非常に興奮してつまらぬ事を氣にしたり怒り易く感動
 し易くなつてゐるから、觀劇とか活動寫眞の觀覽小説類の耽讀睡眠不足等精神の過勞激動を避け
 努めて平靜に保つやうにしなければならぬ。よく新聞の三面記事の種々なる家出とか自殺とか萬
 引其他種々の婦人の犯罪はこの月經時に行はるゝことが最も多いのである。

(ロ) 局部の清潔

月經中は座つて居る時でも歩いてゐる時でも絶えず經血が出てゐるから之が外陰部股間に着し
 よごれるので、この處置を等閑にして不潔になると腐敗して此等の部分が炎症を起して痒くなつ
 たり、糜爛を來し、腔内は經血が充ち子宮は充血腫脹してゐるので若し萬一微菌が侵入すると非
 常な勢ひで繁殖し、爲に腔、子宮の疾病を起すことが決して尠くないのである。故に月經中は特

に局部の清潔を守らねばならぬ。

(一) 局部の清拭

其には毎日二三回微温湯で外陰部を清拭するのがよい。この際決して膣内部に觸れたりお湯や薬で内部を洗つてはいけない。之は反て微菌を中に押し入れる危険があるからである。

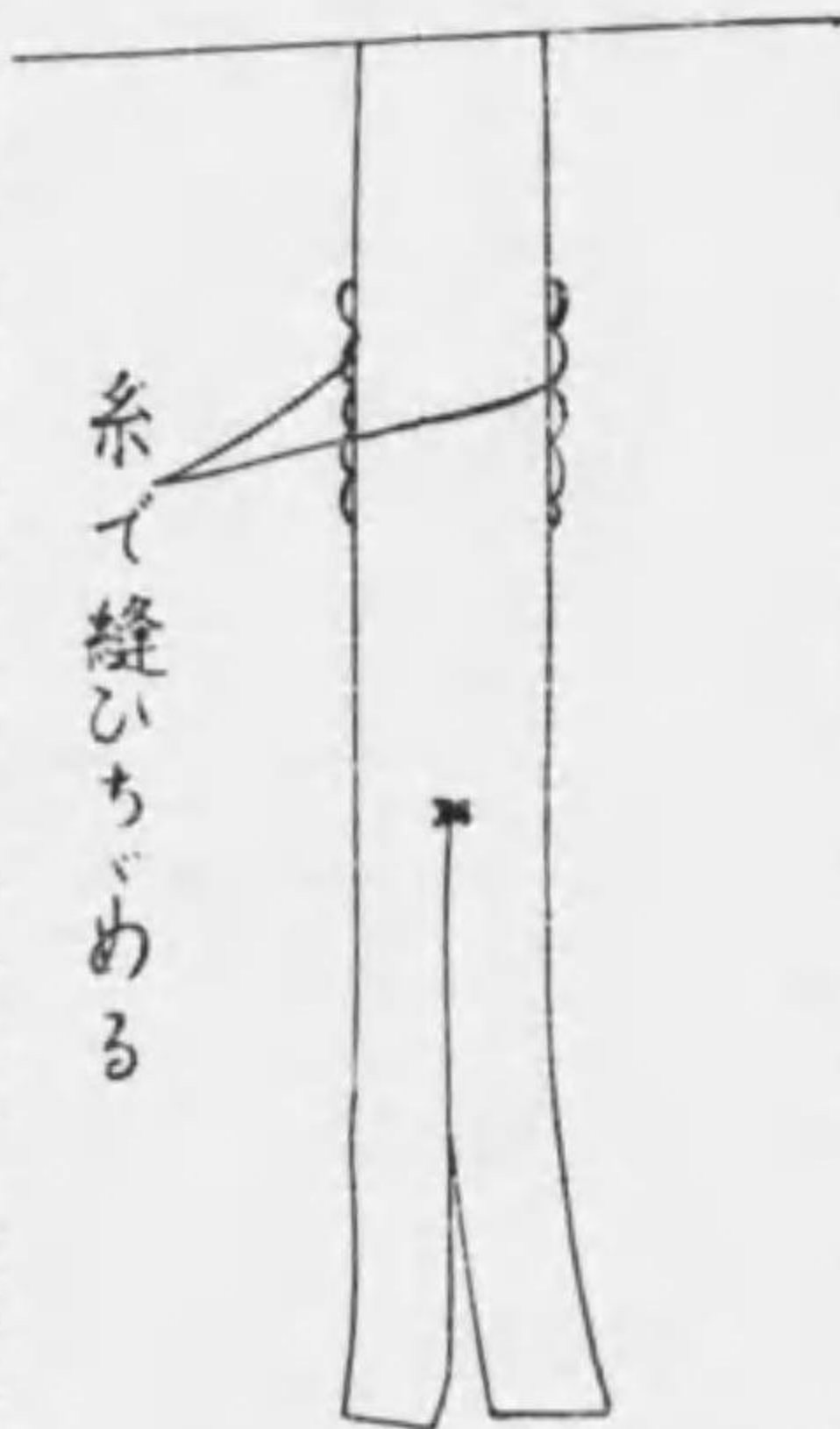
又外陰部がよごれて氣持が悪いので入浴したり腰湯をつかつたりする者があるが之は局部を充血せしめるのでよくない。殊に公衆浴場はよごれてゐるから最も危険である。

(二) あて綿と月經帶

月經の爲に衣服や足が汚れるので外陰部には綿をあてる。この綿を「あて綿」又は「壓抵綿」と云ふ。壓抵綿には消毒した或は綺麗な脱脂綿を用ゐる、脱脂綿は上等の綿の脂肪を抜いたもので少しちぎつて水中に入れて見ると水を吸つて直ぐ沈むのがよく、安價だからとて永く水面に浮いてゐるのは悪いのである。

さてこの綺麗な脱脂綿を外陰部の大きさに切り之を局部にあてるのであるが、よく綿が局部にくつついて不快なので綿の上を清潔な「ガーゼ」で包んであてるのが最もよい。尙この脱脂綿の外側に普通のめん綿(青梅綿)を一枚重ねてあてると外にしみ出ることがないので便利である

第四圖



糸で縫ひぢめる

文化的であるといへやう。即ち圖のやうに一本の紐の中央に半巾の晒木綿二尺五寸位を縫ひつけたもので先の方を紐にからげりやうに二つに裂き尙綿をあてる部の兩側を少しく糸で縫ひぢめてをくがよからう。

この壓抵綿は經血量によつても異なるが一數回とり日換へなければならぬ。でないとも局部が爛れ痒くて困ることがある。若したゞれたらシツカロール又は亞鉛華澱粉を撒布し或は硼酸軟膏をつけるがよい。

尙この壓抵綿をする代りに膣に綿や紙をつめるものがあるが、之は前にも述べたやうに微菌を

侵入せしめる危険があつたり、ちぎれて一部腔内に残つて之が腐敗し白帯下を起し恐ろしい病氣の原因となることが多いので、これだけは嚴に避けねばならぬ。又既にこうした習慣をもつてゐるものは直ちに止めて正しい壓抵法にかへなければならぬ。

(ハ) 其他の注意

月經中は一般に温度的の影響を受けることが鋭敏なのでよく感冒に罹り易いから特に注意して其の豫防に力めなければならぬ。其他胃腸を障碍し易いから暴飲暴食を禁じ胃腸をこはさぬやう注意すると共に特に便秘せぬやう注意を要する。

尙月經中は特に腰と股を冷さないことが大切である。女學生の多くは洋服であるが近頃スカートは膝まで、下ばきは股根までしかなく共に靴下は薄く、日本のやうな氣候では特に冬期に於ては相當注意を要すると思ふ。こうして腰や股を冷やすことは失張り「こしけ」を起す原因となるのである。

(八) 月經の異常

- (1) 月、經、不、順は前述の通りであるが之は種々の婦人病の一症候として起る。
- (2) 無、月、經とは相當年齢即ち十九歳二十歳に達しても未だ月經のないもの又は只一回來汐したが

其後永年ないと云ふもので結核の初期や十二指腸虫病のやうな貧血病に現はれる

- (3) 月、經、過、多、症と云ふのは十日も十五日もあつたりするもので五日間位でもその量が多過ぎて到底起きてゐられないと云ふのも病的である。

(4) 高、度、の、月、經、痛

- (5) 膜、様、月、經とは月經痛が相當強く魚の腸のやうなものが出て、それが出てしまふまでは痛むと云ふもので子宮内膜炎の人に多く起る。

- (6) 月、經、熱といつて月經時に熱が出て月經がとまると同時に熱も止ると云ふのは、之も多くは結核の時に起る。

是等月經に異常のある場合は必ず早期に専門醫師に相談しその檢診を受けるが安心である。只耻しさの爲に賣藥廣告に迷つて獨り秘密に之を服用するが如きは誤りも甚だしく、單にこふした賣藥によつて治ることは殆どないのである。斯くてさうした疾病をもつたまゝ結婚生活に入つてはやがて破鏡の嘆き、家庭の幸福和合の破壊ともなることが決して尠くない。

故に以上述べたやうな月經異常のあつた場合は成る可く早期に醫師の診察を受けねばならぬ。

七、結婚と遺傳

五二

(一) 生命の神秘

「水を樂しむ知者よりも山を樂しむ仁者よりも花を樂しむ我等のいかばかり幸多きものぞ」と誰かと言つたが私も亦こよなくこの花を愛する。

美しい花よ、可愛い、花よ、私等はどんなにお前から慰められることだらう。お前のもつ幾多のロマン스는どんなに私等の若い胸をおどらすことだらう。

然し花を愛する私等は又一輪の花にもソロモンの榮華に優る装あるを見のがしてはならない。

あの種々な形、色、香とあらん限りの粉黛を装ふて蝶を呼び蜂を誘ひ美しい默契によつてお互に子孫繁榮の幫助をなしつゝある様を見る時、私等は只管偉大なる自然の力の前に跪かざるを得ない。

全ての生物は皆自己の生命を永遠ならしめ種屬の將來を繁榮ならしむる爲に常に驚く可き神秘なる機能を現はしてゐる。

シルレルは言つてゐる「哲學者が何と言はふとも飢と戀とで浮世の狂言が行はれてゆく」と。うがち得て妙ではないか。

(二) 結婚と戀愛

「異性相引き同性相反撥す」。陰陽の二法は宇宙の大道である。パイロンは「戀は人生の半ばを占め婦人では全部を占むる」といつてゐる。異性へのあこがれ、それは眞摯なる偽りなき自然の衝動である。然し戀は唯徒らに若き胸に秘められ、弄ばる可きものではなく、正しく培はれ伸ばされ、やがて結婚の庭に美しい花を開き實を結ぶ可きものである。

結婚は親と親、家と家との取引ではなく、どこまでも若き二人のものである。然し盲しいてはならぬ。そこに兩親兄弟長者先輩の指導を必要とする。親はわが子の戀愛に對し最も正しい理解者であり最も親切な相談相手であらねばならぬ。

之を要するに異性の相結ぶは自然の法則であり、文化の向上は人間の欲求であり責任である。そこに健全にして優秀なる男女の奮闘が要求され健全にして優秀なる次代國民養成の義務が生ずる。

眞に自己を愛するものは永劫の生命を傷けてはならぬ。

結婚は人生の最大重要問題である。その前には靜かに考慮省察すべき幾多の事柄がなければならぬ。

五三

(三) 結婚の年齢

「鬼も十八番茶も出花」「三日見ぬ間の櫻かな」と云ふ。

婚姻期にも夫々時期があつて、女性の最も美しい時も確かに必要な一の条件であり自然の要求でもあらう。

法律では民法第七百六十五條に「男ハ滿十七年女ハ滿十五年ニ至ラサレハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス」と定めてあるが昭和五年度帝國人口動態統計によつて見るに婚姻年齢は女は二〇―二四歳が總數の五割二分一厘を占めて最も多く一五―一九歳の二割八厘、二五―二九歳の一割五分四厘が之に亞ぐ。而して法定年齢前十五歳未滿の婚姻は五十萬六千六百七十四件中女三十四人であつた今之を本縣の状況と比較して表示すれば次の如くである。

婚姻者(女)の年齢別(千分比例)

年 齡	大正十五年	昭和二年	昭和三年	昭和四年	昭和五年
一五―一九	靜全 二四六、七〇	二四七、九三	二三五、〇六	二一九、九四	二〇八、一
二〇―二四	靜全 四七六、七八	四七五、七三	四八八、五四	五〇三、〇一	五二一、〇

二五―二九	靜全 一五四、三八	一五五、二七	一五六、四三	一五六、九四	一五三、五
-------	-----------	--------	--------	--------	-------

即ち本縣女子は二〇―二四歳が總數の五割六分を占め一五―一九歳が二割五分で全國平均に比し稍々早婚の傾向をもつてゐる。

更に男女婚姻者の初婚平均年齢に就て見るに明治四十一年の男二六、八一歳女二二、八七歳を最低とし爾來多少の變動あるも漸次高まつて昭和五年に於ては男二七、三三歳女二三、二一歳である。

昭和五年初婚者一、〇〇〇中各年齢の割合

	二〇未滿	二〇―二四	二五―二九	三〇―三九	四〇―四九
男	一一、五	三二七、〇	四五一、八	一六三、九	一一四、八
女	一一、四	五五四、〇	一四四、八	五七、三	一三、五

之を要するに再婚を含む婚姻年齢及初婚年齢の何れより見るも既往に遡てみて、多少の例外を除いては男女共に二〇歳迄の青年者の婚姻は減少を示し男は二五―二十九歳、女は二〇―二四歳の割合が増加する傾向を示してゐる。

前述のやうに月經が來汐すれば妊娠の可能性があり、法律でも十五年から婚姻を認めてゐるが醫學士から之を見れば、骨盤骨の完成は身長の發達も止まり、月經機能も正調になり體力の充實した二十二、三歳頃であり、尙主婦たり母たり特に愛兒の養育者たるの教養等を考え合す時最も好適の結婚年齢は二十二、三歳から二十四、五歳の間であると思ふ。

しかも一般に結婚と初産との關係は平均十六ヶ月で二十歳前後が最も妊娠率の高い事を思へば經濟問題教育問題が漸次晩婚に陥らしめつゝある前述の現状の如何に拘らず、單に出産率の高い我國人口問題緩和策の一としても二十歳前の結婚は避けねばならぬ。即ち從來二十五、六歳の日本女性既に三人の母たるに對し我等が主張によりこゝに第一子を擧ぐるとすれば一人の女性が二人の子を少く生み得るのである。唯徒らに多くの子を生む事が人間たる女性の能でない事を思はねばならぬ。

(四) 配偶者の選擇

ある友から次のやうな物語を聞いた事がある。

それはある日若い美しい婦人がある醫師を訪ねた。そして

「妾は今妊娠二三ヶ月かと思ひますがお腹の子が不具者でないかどうか診て戴きたい」といつ

た。醫師はこの突飛な問ひに驚いたが何か深い仔細のあることゝ種々尋ねてみると、その婦人が涙乍らに物語つた話はこのやうである。――

その婦人は女學校を出て間もなく兩親の命によつてある金持の實業家の處へ嫁いだ。(その男はその地方の實業界で自他共にゆるした若いに似ぬ働きものであると云ふので。)然し新生活に對する喜びも希望も其は儂い夢であつた。夫は屢々夜も更けてしかも亂酒に酔ひしどれて歸つてきた。否歸らぬ夜さえあつた。そして世の實業家と云ふものは皆こふした中に商業上の取引がされるのかと寂しいあきらめに目を過す内に妊娠したのである。やがて月も進みビク／＼と胎兒の動きを感じると、全ての悲しみも忘れ云ひ知れぬ母としての愛念にどんなに其の子の生れ出る日を楽しみ待つたらう。斯くて月滿ちて其の子はこの世に孤々の聲を擧げた。それは二人によく似た可愛い丸々と肥つた男の子であつた。今は生みの悩みも忘れ果てゝ小さな床を並べて唯スヤスヤと眠るいとしい我子の顔に見入つて喜んだ。日を経て自分自身でお湯をつかはしてやらうと裸體にして今更に可愛い我が子の身體にみとれた。そして手傳つて呉れた小間使をも無理にしりぞけ、ふと其子の手を見た時卒倒せんばかりに驚いた。其は六本の指があり、指と指との間が水かきのやうにくつゝいた畸形であつたと云ふのである。

その時の婦人の大きな心の傷みは想像に難くはあるまい。不具の子を生んだ、そして生涯不具者よと笑はれ罵られるその子の心持を思ふ時、婦人の心は亂れに亂れた。何も知らぬ無心の今のうちにと幾度か母の手は其の子の喉に口に鼻にふれたが無心に笑ひ乳欲しさに泣く子を眺めてはどうして無慈悲の行ひが出来やう。煩悶と涙、さうした幾月かゞ過ぎて其の子は幸か不幸か先天性、梅毒と云ふ病名のもとに死んで行つた。そして今が第二回の妊娠なのである。「若しもお腹の子が再びあゝした不具者であつたら妾はその子に對して何と申譯したらいいのでせう。さう思ふ時唯の一日もちつとしてはをられないのです」といつてその婦人はそこに泣き俯したと云ふのである。尤も多指症、合指症は優性遺傳をなすものであるから恐らくその親にもある可きが程度が弱くて外に現れなかつたもので先天梅毒によつたものではあるまい。(後編遺傳の項参照)

地位か、金か、容貌の美か？、勿論地位も高いがよい、財産も多いがよい、容貌も美しいが何よりだ。然し精神や肉體に障礙ある配偶を選んだ時、よし自分は選擇の無省察を悔ひ諦めるとしても未來永劫に續く可き自己の分身である子は孫は果してそれで諦め得られやうか。

私達はたつた二人きりでこの世の中に住んでゐるのでもなければ又二人きりで生きられるものでもない。向ふ三軒兩隣りその交りの中にお互に與へ惠まれてゐる。私等は社會人として、より高い文化の向上を圖り子孫の繁榮を期せねばならぬ責任がある。

私等は現代によりよき男女であると共に次代のよりよき父母たらねばならぬ。

されば結婚は人生の最も重大なる問題として慎重に熟慮考察百年の大計を樹立せねばならぬ。父の爲に持つ夫でもなく、母の爲に嫁ぐ妻でもない。唯兩親の定めてくれるに任せて何等の自分の希望も理想もなく、一寸形式的に見合ひと云ふものをして、相手の顔も碌々見ない位で徒らに九星表を頼りにいくら黄道吉日を撰んでも、自己が五十年の生涯を托すべき無二の伴侶たるべき夫を選ぶ事は出来まい。まして虚言ばかりの媒介口なかつぐちを無條件で信用したり、寫眞の交換位で一生の運命を定めるが如きは恐ろしいと云ふよりも寧ろ馬鹿々々しい。といつて單純に若い心に唯何となく好きだからとか、或は戀は神聖だとか、結婚は戀愛を基調にとか戀愛至上論とか云ふものを眞向にふりかざして其が現代女性なりと親に背けと云ふのではない。

私は我國家族制度の缺點をのぞき、その長所美點をどこまでも伸ばして行きたいものゝ一人として自分の大切な妻は同時に自分の兩親の可愛いゝ嫁でありたい事を第一に希ふ。

故に未だ經驗に乏しく兎角感激して一時の情にほだされ易い若い心を、多年の經驗によつて大成せる兩親の圓滿なる判斷に補ひ、そこに自分の希望理想と兩親の陥り易い舊來の習慣を重んじ

過ぎる傾向との調和を見出し、自分自身の一生の大事と社會國家の將來に對する大きな責任を自覺して適當なる配偶者を選ばねばならぬ。

(五) 結婚に際して考慮を要する體質疾病惡癖

(イ) 身體健康ならざるものは避けたい。

健康は人生活動幸福の基礎である。現代がいかに強健なる國民を要求してゐるかは既に幾度かくり返した所である。虚弱なる兩親から虚弱なる子供が生るゝばかりでなく、單に二人の結婚生活のみに就て考へて見てもその一人の不健康は如何に其の家庭を暗くしその一人の死は如何に大なる悲嘆であらう。生活苦を更に大ならしむるものは其の家庭に病弱者の多いことである。

(ロ) 精神に障礙あるものは避けねばならぬ。

獨り配偶者本人ばかりでなく、よく家系に就て注意しなければならぬ。精神病はもとより低能白痴、性格異常者に至るまで自己家族、社會にとつてこれ程厄介なものはない。そしてこれ等は夫々何等かの動機によつて發病するとしても皆遺傳なる遠因をもつてゐる。そして殆ど治療の途がないのである。これらの者は優生學上社會の犠牲として結婚を避くべきである。

(ハ) 惡疾あるものは避けねばならぬ。

惡疾として特に擧ぐ可きものは梅毒其他の花柳病、癩病、結核である。これらは遺傳ではないが極めて感染力が強いので自己のみならず子供に對し最も危險である。殊に花柳病は男系から持ち來される事が多く梅毒は胎兒の内にその母體から感染し死産早流産を來し、よし其の子が生命を有するも先天性梅毒として天死したり或は不具者低能白痴である場合が尠くない。淋疾は慢性となるや殆ど不治で不妊症其他種々の婦人病を起し一生不快な日を送らねばならぬ。

三荷五荷の嫁入道具よりも唯一枚お互の肉體精神に何等異常なしと云ふ醫師の健康證明書が結婚への一大條件となる世の中を早く實現したいと共にこふした疾病あるものは速かに治療しその治癒するに非れば結婚しないと云ふ自覺を得たい。

此頃配偶候補者の出身學校につきその智能狀態と共に在校中の健康狀況や身體検査成績が問ひ合はされることが多くなつたとか、洵に喜ぶ可きことである。

(ニ) 惡癖特に飲酒癖あるものは避けたい。

飲酒の害は特に中樞神經系に於ける高等精神作用即ち緻密なる注意、判斷、理解、思考等の能力の障礙にある。其他慢性胃腸病、肝臟、心臟、血管等の疾病を起し尙一般抵抗力減退し罹病率死

亡率は増大し特に結核などに罹り易くなる。又子孫に對して惡質を遺傳し虚弱者、低能、白痴、精神病、癲癇、不具などを起さしめることが多い。こゝに「親の飲酒と子供の運命」につき二三の統計を示さう。

(1) ブンゲ氏調査

父の飲酒の程度	調査數	父の結核(%)	子供の結核(%)	父の神經病精神障礙(%)	子供の神經病精神障礙(%)
不飲	四三〇	四、九	一、六	二、六	九、三
中等度飲酒	四八〇	五、八	一、七	三、一	一四、三
大量飲酒	二三一	七、四	二、七	四、三	二二、二
酒客(中毒者)	一六七	一二、六	二九、三	四、八	二七、五

(2) グルーベル氏調査

	早産(%)	死産(%)	生後一ヶ月内死亡(%)	生後五ヶ年内死亡(%)	畸形又ハ疾病(%)	心身健康(%)
節酒家の子供	六、六	二、六	八、二	二一、二	九、八	八二、〇
酒客の子供	一一、五	四、六	四三、九	三三、五	三八、六	一七、五

(3) 和田秀一氏調査(我國の實例)

七組の亂酒家	子供の數	普通	生後間もなく死亡	精神病
一	三十四人	二十九人	一人	三人
二		七ヶ月内死亡	三人	低能 六人
三		成	長二十五人	啞者 一人
四		早産	五人	結核死 二人
五				身體虚弱 五人
六				健康 八人

私は不徹底かも知れぬが敢えて三々九度の杯を割らうとも思はない。年に一度や二度お正月やお祭には飲んで踊るもいゝと思つてゐる。一日十五日神様にさゝげた御酒のお下りを頂戴するも亦よからうと思ふ。その人の體質にもよるが反つて心身を愉快にし心氣一轉更に活動の力を振ひ起すであらう——人間の心身の働きは試験管内の作用のやうにしかく簡單なものではないのだから。然し酒に吞まれて一升酒にくだをまき習慣性のグウタラ酒に酔ふてゐるものがあつたらそんな男は斷然配偶者として拒絶するがよい。

ジョンビー、ゴアの有名な禁酒演説の末句に「自分が害のあると云ふことを見出したらキツパリ止めやうと叫び乍ら習慣の力によつて幾千もの人々が年々飲酒の淵に落ちてゆく」と喝破して

ゐる。

(六) 遺 傳

(イ) 遺傳と教育

私はある年ダリアを作つた事があつた。赤、黄、斑の紫など何れも相當見事な大輪の花をもつた。次の年は土の悪かつた上に鼠の夜根から折れて一二の貧弱な花しか咲かなかつた。一輪の花を咲かすにも實に大きな苦心が要る。「瓜の蔓には茄子はならぬ」先づその球根のいゝものを選びねばならぬ。立派な大輪のその花もやがてさうした花を開く可き力があの小さな球根の中に潜むからではないか。然し球根もいゝ土の中に埋められねばならぬ。適當な肥料、水、日光も與へられねばならぬ。又雑草もむしり虫も除りしつかりした副木もせねばならぬ。尙注意すべきこと一二に止るまい。

一輪の花尙然り況んや人間に於てをやである。

「子供は教育さへすればよくなる、子供がよくなるかならぬかは一に教育の仕方にある」と云ふものがあり又斯く信ずるものがあつたら其は楯の半面を眺めてゐるに過ぎない。成る程教育は必要である、環境の整理も重要である。然し其は土、肥料、水、日光であり、雑草を去り虫を除

くこと等に外ならぬ。根本は球根そのものゝ良否にある。

人間の遺傳素質は反物の質であり教育環境は色揚げ染色法である。いかに流行の色と柄に染め上げやうとしても、よし上手に染め上つても木綿は矢張木綿である。

先づ強健な良い素質を持つ二人の結婚、其は人類繁榮民族發展の第一歩である。

低能の父に賢ならざる子が病弱の母に健ならざる子が生れ易いことは奥太利のブリュンの天主教會の僧侶グレゴールメンデルが一八六六年かの遺傳の法則に於て喝破した事によつて炳として明かな事實である。

(ロ) 親の形質はどうして子孫に遺傳するか。

今こゝに親の形質はどうして子孫に遺傳するかに就て稍々難しいかも知れぬが少しく述べてをかう。

人類を初め高等の生物では雌雄生殖細胞の精子と卵子とが合體して子供が出来、其の子供が必ず親に似てゐるからこの生殖細胞内に遺傳の物質が存在してゐることは疑ない事實である。植物では此卵子は花の胚珠内に在り、精子は花粉粒が發芽した後出来る。植物でも動物でも雌雄の生殖細胞の合體することを受精と云ふのである。

人類の卵子は先きに述べたやうに卵巢内で出来、月經と月經との間に於て一個づゝ排出する。精子は睪丸の精巢内で無數に出来、細胞中極小のもので尾を有し、卵が靜的であるのに對して精子は動的で液體の中を泳ぎ廻つて卵を索めるに都合よく出来てゐる。精子が卵に出合ふと其の一つが皮を突き破つて内部に入る。卵の内へ喰ひ入つた精子は尾を失ひその核は卵の核と合體する斯くの如く受精した卵は早速細胞分裂を始め輸卵管から子宮に降つて其の内壁に附着する。其の後は胎盤を通して母體から養分を吸収して次第に發育するのである。

受精した卵が分裂發育する順序として、動物では受精した核の内部に變化が起り色によく染まる染色體が出来る。この染色體は棒狀を成してゐて動物の種類によつて其の数が夫々一定してゐる。

遺傳の物質即ち遺傳因子は此の染色體に含まれてゐるのである。

受精卵が分裂する際には先づ以て此の染色體が縦に分れて二つになり細胞の兩側に離れてゆく兩側に分れた染色體は夫れ／＼集つて元のやうになつて核を形成すると茲に卵細胞は二細胞に縊れて分裂するのである(第五圖)。細胞の増殖する時には此の如く各染色體が縦裂して二つに成り各片が別々の核を形成するのであるから何回細胞分裂が繰り返されても染色體の數に變りは起らぬのである。生物によつて例へば人は四十八本(二十四對)内一對は性を決定する染色體で男女性によりその形は異なる)牛は三十二本米は十二本林檎は十四本と云ふやうに一定して居るのは之れが爲である。この染色體内の遺傳物質が受精によつて兩親から子供に傳つて往くのである。

メンデルは豌豆に就て其の花の色實の形等の遺傳因子が人工媒助の受精即ち交配によつて如何に遺傳し雜種を生ずるかを研究して遺傳の法則を發見したのである。

(ハ) メンデルの法則

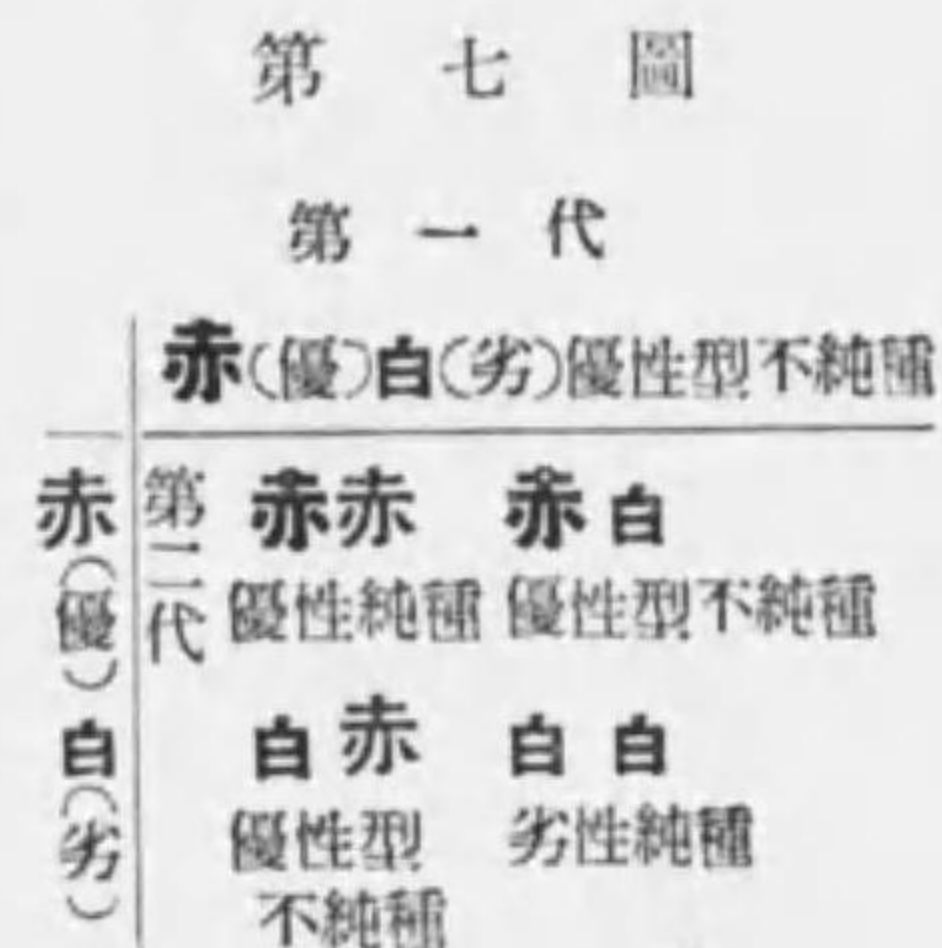
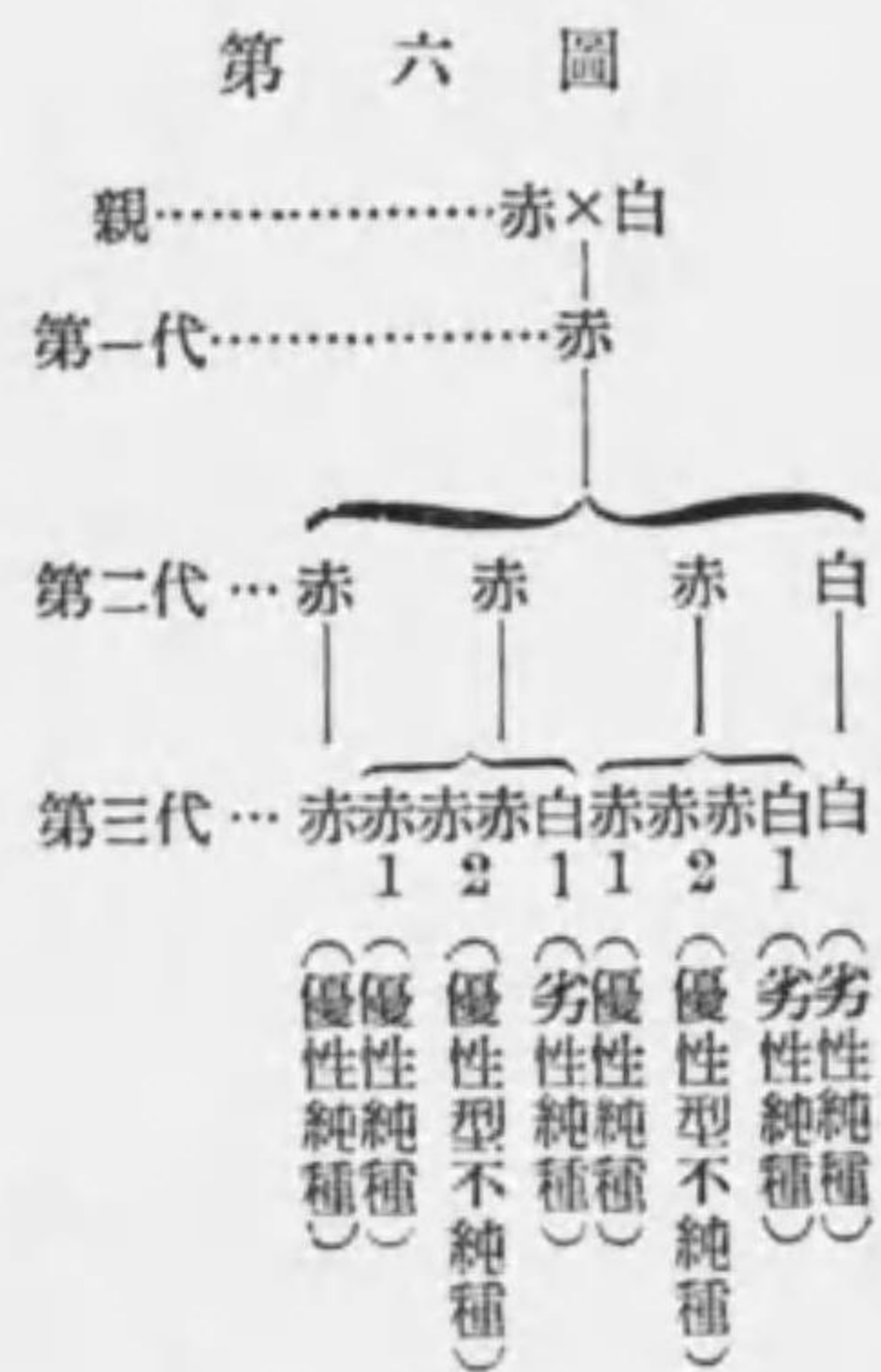
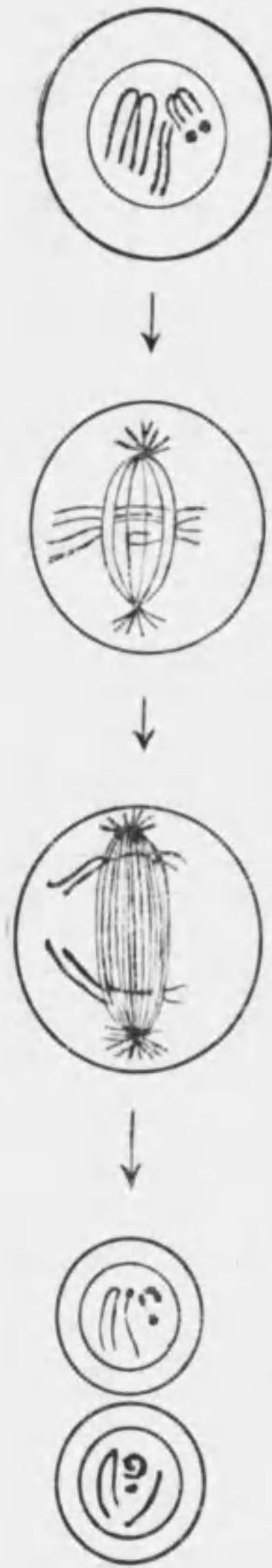
一、單位形質の法則、遺傳質は其れ以上細分されない單位形質から成り、其が集散離合しても單位形質の本質は永久に變らぬ。

二、優越の法則、遺傳の單位形質即ち因子には優性と劣性とがあつて、此兩者は子に傳つて混

融しないで劣性は優性に壓せられて現はれない。

三、分離の法則、劣性因子は子の代には優性に壓せられてゐても單位形質の法則で本質には變化がないので、孫の代にはそれが優性から分離して来て再び現はれるのである。之をメンデルのやつた豌豆の交配實驗について少しく説明しやう。

メンデルは豌豆の純粹に赤い花の咲く種類と白い花の咲く種類とを交配させて見たが、その間から出來た種類は何れも赤い花のものばかりだつた次に其等の雜種の自家受粉をやつて第二代をつくつて見た所が赤い花と白い花と咲くものが出來て其の現出數の割合が赤い花が三に對して白い花が一であつたそれから次々と第三代第四代と掛け合せて行くといつても赤と白とが三と一の割合で出て來た所が第二代の時に出來た白いものゝ自家受粉をやつて第三代を見ると白い花計りしか出來て來ない以上のメンデルの實驗を其のまゝ表に書き表して見ると次の通りである(第六圖)



此のメンデルの實驗によつて見ると子の代には赤い花ばかり出來るが孫の代に白い花が現はれてくる、即ち子の代には白と云ふ性質が劣性として優性の赤に蔽はれて外觀に現はれなかつたが孫の代に再現したのである。(第七圖)

このメンデルの遺傳の法則が世界の學者に認められてから約三十年(メンデルが之を發表した頃には世の誰も其の論文を讀んでくれたものはなく、彼自身は恐らく不滿の中に一八八四年六十三歳で死んだが一九〇〇年獨乙のホルレンス、奧太利のチエルマツク、和蘭のドフリースの三人が同時に各々無關係に然かもメンデルの法則を知らずに豌豆と玉蜀黍とで雜交の研究をしその結

果を發表した所が偶然にも三人の論結が一致してゐたので始めて世人の耳目を新にした。そこで色々調べてみると其の事實はそれより三十五年も前にメンデルがブルユンの博物年報にちやんと書いてゐたので、之を「メンデルの法則」と名づけてその偉大な業績が世界的に認められたのである。其の間に植物や動物で色々の實驗が行はれて遺傳についてより以上詳しい種々な事實が發見せられ、人間に就ても亦家系の觀察によつていろ／＼の事がわかつたのである。

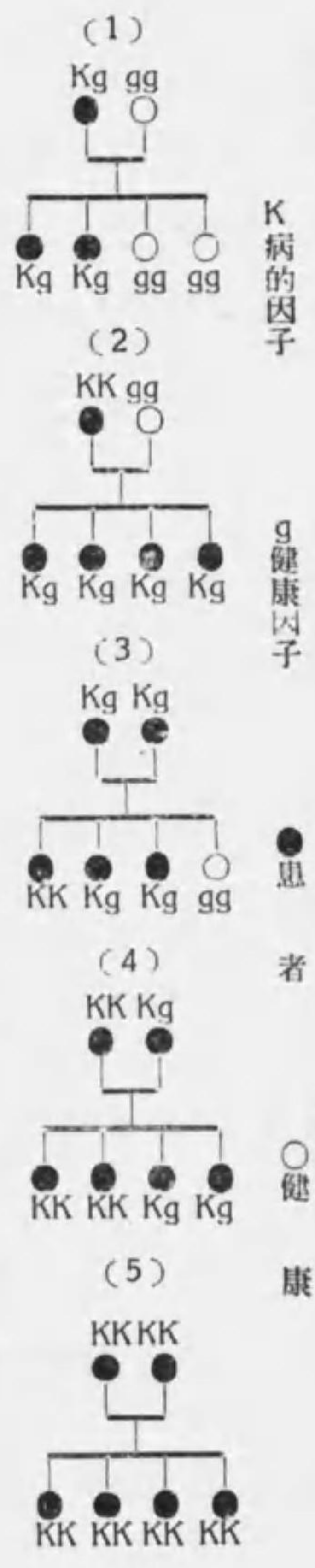
(ニ) 優性遺傳と劣性遺傳

こゝに人間に於ける二三に就て述べて見れば正常形質では毛髪で縮れ毛、黒色は優性であり眞直ぐ、薄色から赤色のものは劣性である。又皮膚の色の濃いものは優性で淡いものは劣性である。性癖の神經質は優性で遲鈍性は劣性である。病的又は不具形質では多指症、短指症、合指症、多汗症を伴ふ先天性禿頭症などは優性で、先天性聾啞症、全身性白子、侏儒、癲癇、種々の精神病などは劣性である。尙性染色體中に含まれる即ち性に隨伴する遺傳症として、優性としては、ヒステリー症、脂肪肥滿症、パセドゥ氏病などが擧げられてゐるが之は尙今後の研究に俟つべく、劣性としては色盲、血友病などが數へられる。

而して優性遺傳病は患者の兩親のうち少くとも何れか一方が必ず病人であつて、假令その病人

を多く出した家族に屬する人間であつても本人さへ健康ならば之と結婚しても絶対に危險はない優性遺傳病の患者はいかなる結婚によつて產生されるかと云ふに、兩親の一方だけが患者である場合(1)(2)と兩親とも患者である場合(3)(4)(5)で之には次の五つの場合が考へられる。(第八圖)

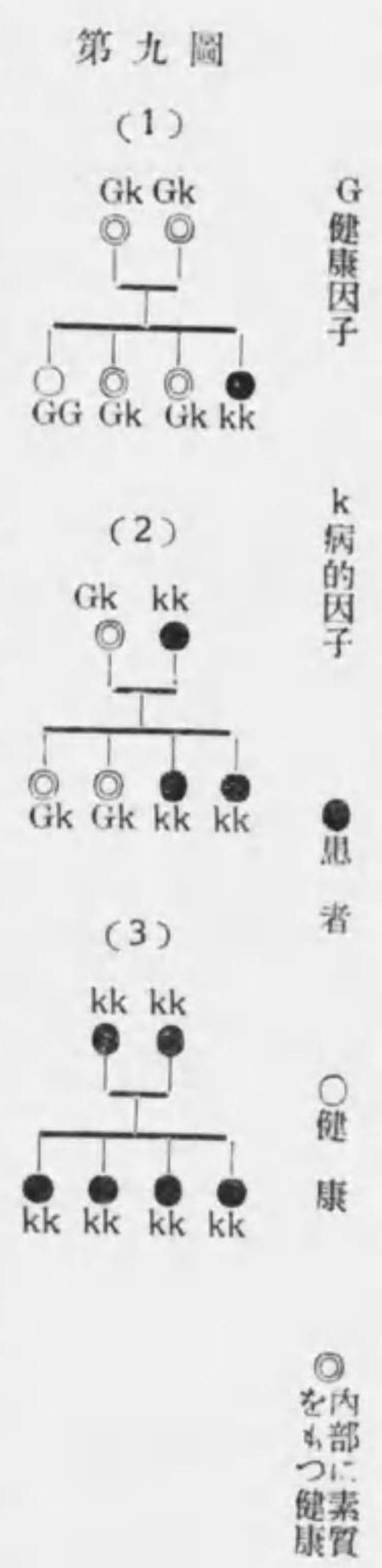
第八圖



この五つの場合の中どの結婚が實際問題として社會に最も多いかを考へるに、(3)(4)(5)は何れも兩親とも病人で子供も全部か大部分が患者であるので外から目にもつき易く、又患者自身も自己の家系に不快な念を抱くだらうし、この者が同一の患者を配偶者に探し求めることは稀有であらう。然らば(1)か(2)の場合であるがKgなる病人とKKなる病人とでは、KKの生るゝ結婚は(3)(4)(5)の場合であるから實際上世間にはKgの如き病人が最も多いわけで従つて(1)の場合即ち半分の因子だけ病

的因子をもつ患者が健康人と結婚する場合が最も多く、子供にあらはる割合は健康者の半である劣性遺傳病の患者は悉く同質接合体のものゝみであつて、K_gは皆健康としてあらはるゝ爲優性のその如く病人が各世代繼續的に現はるゝやうな事は殆どない。

今前の如く患者を生むあらゆる可能なる結婚を考へて見るに次の三の場合がある。(第九圖)



即ち両親とも健康なる場合は(1)の如きもので外見上健康なれども内部に病的素質を有するものゝ結婚でこの時は子供の四分の一だけが病氣となる。(2)は両親の一方が患者である場合で子供の半數が病氣となる。(3)は両親とも患者である場合で子供全部が病氣となる。

而してこの中、社會的に最も多く見らるゝ可能性のある結婚は(1)の場合であつて、即ち內的に素質を有つも見かけ上健康なる者同志の結婚である。これは外部の社會に配偶を求むる場合は決

して多く起り得ないのであるが、たゞ血族内に配偶を求むる場合には比較的多く起り得るのである。而してこの場合患者の生るゝ率は健康者三に對する患者一である。健康者三の中一は全然健康で二は内部に病的素質を有つた健康である。

(ホ) 才能の遺傳

遺傳については尙重要な幾多の問題があるが餘りに煩に亘るので以下一二の實例を述べてこの編を結ぶことにしやう。

合衆國のニュージヤン州、ヴァインランド低能兒教育所に一八九七年の秋デボラー、カリカックと云ふ八歳になる低能な女兒が收容された。ゴツダードと云ふ心理學者は非常な苦心をしてこの兒の祖先について調査を重ねた結果次のやうな事實が明かにされた。

事實の中心人物はマルチン、カリカックと云ふ男である。この男は十五歳の時に両親に死に分かれて然る可き監督者もなく育つたが丁年に達した頃米國獨立戦争が起つた。國內至る所で義勇軍が組織され青年達は争つて其に参加したがマルチンも一七七六年義勇軍に加はつて出征した。そして彼は從軍中ある料理屋の一人の低能な女との間に男子を設けた。然しマルチンは從軍二年目に負傷して郷里に歸り、こゝで健全な婦人と正當な結婚をして七人の子女を生んだ。然るに健

全な婦人との間の子孫四百九十六名には一人の低能児もなかつたが、最初の低能な女との間の子孫四百八十名には非常に低能児が多く確實に知ることを得た百八十九名中缺陷のなかつたものは僅かに四十六名に過ぎなかつたと云ふ。そしてデボラー、カリカツクはその子孫なのである。

其他チユークス家系の如きも不良な家系の例として有名である。之に反し英國のエラスマス、ダーウキン家系、米國のチヨナサン、エドワーズ家系、我國では箕作一家の如き優秀なる家系も少くない。本縣でも岡田一木一家の如き尙其他たづぬれば其の例も少くはなからう。

○

以上述べた如く才能、種々の疾病、畸形、病的體質素質其他あらゆる形質は直接父母から遺傳するばかりでなく、二三代數代前の祖父母、曾祖父母等又は父母の兄弟姉妹傍系からの遺傳も亦著明に現はれる場合もある。そして子孫はいくら譲られたくないものでも、いくら之を拒絶したくても厭でも應でも其を貰ひ受けなければならない。子は親を選ぶことは出来ない。然し親はその親たる前の若き二人の選擇に於て自由なのである。

再び繰り返す。私等は二人きりで生きられるのではない。私等が自分勝手であることが私等に與へられた眞の自由ではない。私等は社會の一員として生きてゐる。そこに當然社會人としての

責任がなければならぬ。そこに社會人として歩む可き道がなければならぬ。

處女諸姉よ、まづ健康なれ。そして幸多き正しき新生活へ！

健康の喜びに充ちた琴瑟相和する家庭から、より強き奮闘の力が湧き、母性としての自覺と眞の合理的愛から強健なる後繼者が生ひ立つてゆく。

縣下數萬の處女諸姉に恵みあれと祈りつゝ筆を擱く

——七、六、五夜稿——

昭和七年七月十日印刷
昭和七年七月十五日發行

〔定價 金十錢〕

著者 村山 午朔

發行者 三上 時太郎

印刷所 靜岡市寶町二三番地
杉江 印刷所

電話二二七六番

不許
複製

發行元

濱松市連尺二十六
靜岡市吳服町四丁目

谷 島 屋 書 店

濱松電話二二六番
靜岡電話一九八一番
松濱電話東京一二〇番
岡濱電話東京六七八九番

終

